

活 動 報 告

日本語研修コース

深見兼孝

[修了者]

第 50 期生名簿 (2010 年 4 月～2010 年 9 月) [15 名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Khung, Rathvisal	クン	カンボジア	歯学	広島大学
Ung Akhara	アカラ	カンボジア	教育学	広島大学
Diwa, Christine Pineda	クリスティン	フィリピン	教育学	広島大学
Yong, Kelly Tau Len	ヨン	マレーシア	化学工業	広島大学
Wai Yee Lin	ウェイ	ミャンマー	食品安全・品質管理	広島大学
Ngai, Ernest Henry	ナイ	カナダ	交通工学	広島大学
Chiru, Lia Alexandra	リア	ルーマニア	遺伝学・細胞分子生物学	広島大学
Khalesi, Elham	エルハム	イラン	バイオテクノロジー	広島大学
Gokdemir, Hulya	フリア	トルコ	教育学	広島大学
Rakotomanana Elliot Faranandrasana	エリオット	マダガスカル	栄養学	広島大学
Rosales Ambriz, Oscar Omar	ロサレス	メキシコ	ビジュアルアート	広島市立大学
董玉明	トウ	中国	身体運動科学	広島大学
馬龍	バ	中国	中国近代思想	広島大学
朴清日	パク	韓国	法政システム	広島大学
路明	ロ	中国	文化財学	広島大学

[修了者]

第51期生名簿（2010年10月～2011年3月）[13名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Hamrouche Chouaib	シュアイブ	アルジェリア	電子工学	広島大学
Dekoum Assaha Vincent Marius	デコウム	カメルーン	植物学	広島大学
Simanungkalit, Risma Jenny Mariana	ジェニー	インドネシア	比較国際教育学	広島大学
Mirana, Ana Espejo	アナ	フィリピン	理科教育	広島大学
Marcera, Ariel Navarra	アリエル	フィリピン	数学教育	広島大学
Husanov, Ismatilla	フサノブ	ウズベキスタン	教育開発	広島大学
権珠榮	クオン	韓国	健康情報学	広島大学
跟兄	ゲン	中国	デザインの美学	広島大学
李澤征	リタクセイ	中国	燃烧工学	広島大学
孟琢	モウ	中国	燃烧工学	広島大学
羅雯雯	ラ	中国	化学	広島大学
李鄭博	リテイハク	中国	保健体育学	広島大学
牛美紅	ニユウ	中国	金属基複合材料の 製造	広島大学

講師一覧

第50期（2010年4月～2010年9月）

専任 浮田三郎 多和田眞一郎 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 石井敬子 今石正人 後藤美知子 佐藤道雄 松村一得

[専門用語解説]

伊藤奈保子(文学研究科) ウォーゼン, チャールズ(広島市立大学) 栗原英見(医歯薬学総合研究科) 関矢寛史(総合科学研究科) 田原栄俊(医歯薬学総合研究科)

鳥矢部茂(社会科学研究科) 藤原章正(国際協力研究科) 堀田泰司(国際協力研究科)

松原主典(教育学研究科) 松村幸彦(工学研究科) 水羽信男(総合科学研究科)

山田浩之(国際協力研究科) 弓削類(保健学研究科) 吉田和浩(国際協力研究科)

第51期（2010年10月～2011年3月）

専任 浮田三郎 多和田眞一郎 中川正弘 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 今石正人 後藤美知子 佐藤道雄 松村一得

第50期（2010年4月～2010年9月）予定表

期日	行事／試験等	見学（総合演習）	備考
4/5 - 4/9	4/6（火）13:00 オリエンテーション(K308) 4/7（水）11:00 開講式（教育学部第3・4会議室）		4/7（水）11:30 ホストファミリー案内(K308)
4/12 - 4/16			
4/19 - 4/23		4/23（金）広島市	4/23（金）17:30 ホストファミリー対面式
4/26 - 4/30			4/29（木）昭和の日（祝日）
5/3 - 5/7			5/3（月）憲法記念日（祝日）・ 5/4（火）みどりの日（祝日）・ 5/5（水）こどもの日（祝日）
5/10 - 5/14			
5/17 - 5/21		5/21（金）宮島	
5/24 - 5/28			
5/31 - 6/4	6/3（木）中間試験・専門用語解説開始		
6/7 - 6/11			
6/14 - 6/18			
6/21 - 6/25			
6/28 - 7/2		7/2（金）マツダ	
7/5 - 7/9			
7/12 - 7/16			
7/19 - 7/23			7/19（月）海の日（祝日）
7/26 - 7/30	7/29（木）期末試験 7/30（金）特別講義		
8/1 - 8/31	夏休み		
9/1 - 9/3	9/1（水） - 9/3（金）特別講義		
9/6 - 9/7	9/6（月）特別講義 9/7（火）13:30 修了式・研修成果発表会（学生プラザ4F 多目的室）		

第51期（2010年10月～2011年3月）予定表

期日	行事／試験等	見学（総合演習）	備考
10/4 - 10/8	10/5（火）13:00 オリエンテーション(K308) 10/6（水）11:00 開講式（学生プラザ4F 多目的室）		10/6（水）11:30 ホストファミリー案内（学生プラザ4F 多目的室）
10/11 - 10/15			10/11（月）体育の日（祝日）
10/18 - 10/22		10/22（金） 広島市	10/22（金） 17:00 ホストファミリー対面式
10/25 - 10/29			
11/1 - 11/5			11/3（水）文化の日（祝日）
11/8 - 11/12			
11/15 - 11/19			
11/22 - 11/26		11/26（金） 宮島	11/23（火）勤労感謝の日（祝日）
11/29 - 12/3			
12/6 - 12/10	12/9（木）中間テスト		
12/13 - 12/17			
12/20 - 12/23			12/23（木）天皇誕生日（祝日）
12/24 - 1/7	冬休み		1/1（土）元日（祝日）
1/10 - 1/14			1/10（月）成人の日（祝日）
1/17 - 1/21		1/21（金） マツダ	
1/24 - 1/28			
1/31 - 2/4			
2/7 - 2/11			2/11（金）建国記念の日（祝日）
2/14 - 2/18			
2/21 - 2/25	2/24（木）期末テスト 2/25（金）特別講義		
2/28 - 3/3	2/28（月） - 3/2（水）特別講義 3/3（木）13:30 修了式・研修成果発表会（教育学部第3・4会議室）		

日本語教育部門：日本語・日本事情 (2010年4月～2011年3月)

田 村 泰 男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	広島大学外国人留 学生のための授業で ある。
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅠC	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡC	1・1	2	2	
総合日本語中級ⅠA	1	2		
総合日本語中級ⅠB	1	2		
総合日本語中級ⅠC	1	2		
総合日本語中級ⅠD	1		2	
総合日本語中級ⅠE	1		2	
総合日本語中級ⅠF	1		2	
総合日本語中級ⅡA	1	2		
総合日本語中級ⅡB	1	2		
総合日本語中級ⅡC	1	2		
総合日本語中級ⅡD	1		2	
総合日本語中級ⅡE	1		2	
総合日本語中級ⅡF	1		2	
日本語聴解特別演習A	1	2		

日本語聴解特別演習 B	1		2	
日本語分析特別演習 A	1	2		
日本語分析特別演習 B	1		2	
日本語表現特別演習 A	1	2		
日本語表現特別演習 B	1		2	
日本語古文特別演習 B	1	2		
日本語古文特別演習 B	1		2	
日本語語彙特別演習 A	1	2		
日本語語彙特別演習 B	1		2	
映像日本語特別演習 A	1	2		
映像日本語特別演習 B	1		2	
日本の社会・文化 A	1	2		
日本の社会・文化 B	1		2	
日本語・日本文化特別研究 I A	4		4	
日本語・日本文化特別研究 I B	4		4	
日本語・日本文化特別研究 I C	4		4	
日本語・日本文化特別研究 II A	4	4		
日本語・日本文化特別研究 II B	4	4		
日本語・日本文化特別研究 II C	4	4		

・霞キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
総合日本語初級 I A	1・1	2	2	広島大学外国人留 学生のための授業で ある。
総合日本語初級 I B	1・1	2	2	
総合日本語初級 II A	1・1	2	2	

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB・ⅠC
担当教官	石原 淳也・深見 兼孝・多和田 眞一郎
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA・ⅡB・ⅡC
担当教官	田村 泰男・中川 正弘・下村 真理子
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・ レベル 3

授業科目	総合日本語中級 I A ・ I B
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 本授業では次のトピックを扱う： クラスメート、手紙、誕生日、日曜日、結婚式、お花見、アルバイト、家族、宇宙、留学生の生活、小旅行、犬好き、風呂屋、東京での生活、曜日、正月、花火、体育の日、かまくら、すもう、駅の売店、日本語のあいまいさ、ロボット、温泉と火山
テキスト	「日本語中級読解入門」 (アルク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I C
担当教官	坂田 光美
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴 合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、 道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、 砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、 「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、 新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、 留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか 缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.2」 (凡人社)
成績評価の方法	出席状況と試験および宿題による評価。

授業科目	総合日本語中級 I D・I E
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I F
担当教官	下村 真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、 震度3、世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、 日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、 右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、 阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、 十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、 通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・ レベル 4

授業科目	総合日本語中級ⅡA・ⅡB
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの句型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」(アルク)
成績評価の方法	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡC
担当教官	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	本授業では、次のようなトピックスを扱う： 回転寿司、郵便局からのお知らせ、名前のない手紙、 成績と朝ごはん、地震に強いビル、いちばん上の子、結婚相手、 太鼓のひびき、睡眠不足、お菓子のおまけ、進化するロボット、 人類はメン類、日本を知らない日本人、よみがえった日本の技術 若い登山家、変化する就職活動、三年寝太郎、屋上の緑化、 英語力や資格は必要ですか、燃料電池自動車
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	総合日本語中級ⅡD・ⅡE
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしなない、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」(研究社)
成績評価の方法	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡF
担当教官	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、 (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

・ レベル 5

授業科目	日本語聴解特別演習 A
担当教官	深見 兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語聴解特別演習 B
担当教官	深見 兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語分析特別演習 A
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらい、その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習 B
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらい、その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習 A
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習 B
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語古文特別演習 A
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語古文特別演習 B
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語語彙特別演習 A
担当教官	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習 B
担当教官	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 量語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習 A
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習 B
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・日本事情

授業科目	日本の社会・文化 A
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. 若者のライフスタイルと職業意識 3. 4. 日本における「中流階級文化」 5. 6. ジェンダーフリー 7. 試験 8. 9. 生命倫理 10. 11. 12. 現代家族の様相 13. 14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の社会・文化 B
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題—不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学—観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

・ 特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の世界・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義Ⅰ～Ⅵ、地域研修Ⅰ～Ⅵ、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の世界・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義Ⅶ～Ⅻ 地域研修Ⅶ～Ⅻ 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

(霞キャンパス)

・レベル 1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB
担当教官	山中 康子・渡部 浩見
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル 2

授業科目	総合日本語初級ⅡA
担当教官	渡部 浩見
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験

日本語教育部門：留学生関係科目 (2010年4月～2011年3月)

田 村 泰 男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		備 考
		前 期	後 期	
Elementary Japanese I A	2		2	広島大学短期 交換留学生のため の授業である。 。
Elementary Japanese I B	2		2	
Elementary Japanese I C	2		2	
Elementary Japanese I D	2		2	
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	
Intermediate Japanese I A	2		2	
Intermediate Japanese I B	2		2	
Intermediate Japanese I C	2		2	
Intermediate Japanese I D	2	2		
Intermediate Japanese I E	2	2		
Intermediate Japanese I F	2	2		
Intermediate Japanese II A	2		2	
Intermediate Japanese II B	2		2	
Intermediate Japanese II C	2		2	
Intermediate Japanese II D	2	2		
Intermediate Japanese II E	2	2		
Intermediate Japanese II F	2	2		

Advanced Japanese A (Listening)	2	2		
Advanced Japanese B (Listening)	2		2	
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2		
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2	
Advanced Japanese A (Expression)	2	2		
Advanced Japanese B (Expression)	2		2	
Advanced Japanese A (Classical)	2	2		
Advanced Japanese B (Classical)	2		2	
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2		
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2	
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2		
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2	
Japanese Society and Culture A	2	2		
Japanese Society and Culture B	2		2	

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル 1

授業科目	Elementary Japanese I A・I B・I C
担当教官	堀田 泰司・山中 康子・渡辺 久美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル 2

授業科目	Elementary Japanese II A・II B・II C
担当教官	恒松 直美・松崎 寛・渡辺 久美
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・ レベル 3

授業科目	Intermediate Japanese I A・I B
担当教官	石原 淳也
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。 適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I C
担当教官	下村 真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、 震度3、世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、 日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、 右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、 阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、 十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、 通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	Intermediate Japanese I D・I E
担当教官	石原 淳也
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I F
担当教官	下村 真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴 合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、 道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、 砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、 「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、 新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、 留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか 缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.2」(凡人社)
成績評価の方法	出席と試験および宿題による評価。

・ レベル 4

授業科目	Intermediate Japanese II A・II B
担当教官	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしなない、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」 (研究社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教官	坂田 光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前にまず、 (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」 (凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	Intermediate Japanese II D・II E
担当教官	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの句型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」（アルク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教官	坂田 光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、 (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」（凡人社）
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

・ レベル 5

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教官	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese A (Expression)
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Expression)
担当教官	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Classical)
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese B (Classical)
担当教官	多和田 眞一郎
目 標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教官	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教官	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 量語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・ 日本事情

授業科目	Japanese Society and Culture A
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1.2. 若者のライフスタイルと職業意識 3.4. 日本における「中流階級文化」 5.6. ジェンダーフリー 7. 試験 8.9. 生命倫理 10.11.12. 現代家族の様相 13.14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	Japanese Society and Culture B
担当教官	中矢 礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題—不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学—観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

第 25 期 (2009---2010)
日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、本国際センター（旧留学生センター）で受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、国際センター（旧留学生センター）の四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営され、(1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして (3) 指導教官のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教官と国際センター（旧留学生センター）にレポートを提出する。国際センター（旧留学生センター）では毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

<受け入れ学生の概要>

第 25 期は国際センター（旧留学生センター）受入のアメリカ、チェコ、シンガポールからの学生それぞれ一名、部局間協定に基づく教育学部受け入れのニュージーランドからの学生 1 名の計 4 名でプログラムを実施した。

<特別講義等>

2009 年度（第 25 期）日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

10 月

- 6 日 11:00 開講式（学生プラザ）（石原）
- 8 日 10:30 プレイスメント・テスト
13:30 オリエンテーション(センターK213)（中川）
- 15 日 広島見学 1（広島城・平和公園）（石原）
- 22 日 特別講義「音声学」（石原）
- 29 日 特別講義「現代日本語の語彙」（田村）

11 月

- 5 日 広島見学 2（現代美術館ほか/HS 協会対面）（中川）
- 12 日 特別講義「日本人の言語行動」（大浜）（浮田）
- 19 日 特別講義「俳句入門」（浮田）
- 26 日 宮島見学（石原）

12 月

- 3 日 特別講義「日本の考古学」（竹広）（浮田）
- 10 日 西条酒造会社見学（田村）
- 17 日 マツダ見学（石原）

1 月

- 14 日 特別講義「日本語と文体」（中川）
- 21 日 特別講義「世界の平和教育」（中矢）（浮田）
- 28 日 福山見学（田村）

3 月

- 29-30 日 瀬戸内海しまなみ研修ツアー（中川）

4月

- 9日 プレイスメントテスト2
- 16日 オリエンテーション2 (中川)
- 23日 特別講義「比較言語文化論の視点」(浮田)
- 30日 ゴールデンウィークのため休み

5月

- 7日 研修レポート構想発表 (石原)
- 14日 特別講義「沖縄のことば」(多和田)
- 21日 サタケ見学 (中川)
- 28日 特別講義「日本の漢詩」(佐藤：文学研究科)

6月

- 4日 特別講義「日本の経済」(小松：国際協力研究科)
- 11日 特別講義「日本社会とジェンダー」(恒松)
- 18日 特別講義「広島の方言」(高永：文学研究科)
- 25日 呉市・下蒲刈島見学 (中川)

7月

- 2日 特別講義「平和国家日本」(中園：国際協力研究科)
- 3日 ホームステイ協会交流会 (中川)
- 9日 研修レポート中間発表 (石原)
- 16日 授業調整で月曜日の時間割のため休み
- 23-24日 松江・出雲見学旅行 (石原)

9月

- 6日 レポート提出締め切り (石原)
- 6日 レポート発表会、修了式

第11期 平成22年度(2010年度)
広島大学日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成10年10月の「日韓共同宣言」、平成12年8月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年8月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成12年11月より広島大学においても学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成15年度まで各5名ずつ、平成16年度2名、17年度5名、18年度4名、19年度、20年度は5名、21年度2名と人数は年度によって増減はあったものの、途切れることなく学部入学前予備教育生を受け入れ、旧留学生センターからの改組により国際センターとなった本年度は5名の予備教育生を受け入れることとなった。

旧留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成12年6月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループの発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた。法人化による国際交流委員会の廃止で、平成16年度より「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されることとなり、本事業に対する旧留学生センターの関与はより大きくなってきた。

本年度は旧留学生センターの改組に伴い、留学生センター運営委員会が廃止されたため、「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は国際センターの下に組織され、佐藤国際センター長が部会長に就任され、前部会長である工学研究科の西田准教授と、国際センター石原准教授が副部会長に就任した。

本事業において国際センターは

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言
4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定

5. 見学引率
 6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート
 7. その他謝金講師のサポート
 8. 学生チューターの指導
- 等の業務を行っている。

予備教育について

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を実施していたが、平成 16 年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」を履修させることとなった。以前は、学生の日本語能力に合わせ、レベル 3，4 を履修させていたが、本年度はレベル 4，5 を履修させた。また、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、17 年度より、本予備教育生用に日本語会話、日本語作文を各 1 コマ開設している。

また、本年度は生物系の学科へ進学する可能性のある者がいないため、生物のクラスを開設せず、代わりに日本と韓国の文化的な違いについての理解を深めるために日韓文化論のクラスを開講するとともに、人文科学系の科目受講のための準備として、日本語読解のクラスを開講することとした。なお、本 22 年度における予備教育科目および週当たり時間数は以下の通りである。

10 年度日韓共同理工系学部留学生時間割

	月	火	水	木	金
1			日本語読解 石原 K210	数学 2 末信 K210	数学 1 矢口 K210
2	物理 1 大磯 K210	日本の 社会・文化 中矢 K214	化学 2 赤瀬 K210	日本語中級 坂田 K116	日本語会話 坂田 K210
3	映像日本語 石原 K213	化学 1 下赤 K210	日本語中級 山中 K308	日本語語彙 田村 K109	日韓対照 文化論 坂田 K213
4	日本語聴解 深見 K214	日本語中級 田村 K215	物理 2 和田 K213	日本語分析 中川 K114	日本語作文 坂田 K213
5		Advanced English Conversation Lauer J307 号教室 (総合科学部)			

10 年度日韓共同理工系学部留学生行事予定

	期間	行事等	見学(金曜)	備考
W0	10/3-10/9	5 渡日、6開講式(11:00)、 6, 7諸手続	8 プレイメントテスト(10:30)	
W1	10/10-10/16	11 体育の日 12 授業開始	15 広島城、平和公園見学	月なし
W2	10/17-10/23			
W3	10/24-10/30			
W4	10/31-11/6	3 文化の日	5 創立記念日	水金なし
W5	11/7-11/13			
W6	11/14-11/20			
W7	11/21-11/27	23 勤労感謝の日	26 宮島見学	火なし
W8	11/28-12/4			
W9	12/5-12/11			
W10	12/12-12/18	補講期間	17 マツダ見学	
W11	12/19-12/25	補講期間、23 天皇誕生日		
		冬休み(12/24-1/7)		27 月曜授業
W12	1/2-1/8			
W13	1/9-1/15	補講期間、10 成人の日		月なし
W14	1/16-1/22	専門科目終了		
W15	1/23-1/29			
W16	1/30-2/5	3 旧正月		
W17	2/6-2/12	10 修了式 11 建国記念日		
		春休み(2/12-)		

2010 年度留学生支援調査結果報告ならびに改善にむけての提言

国際センター国際教育部門 准教授 中矢礼美

留学生支援調査とは、2003 年から毎年行っている調査であり、この調査結果に基づき留学生支援体制の改善を図ってきた。今年度は、キャリアセンターおよびハラスメント相談室とともに役員会議で承認された後に実施した。

調査結果を元に、以下提言を 4 点にまとめている。宿舎や経済支援については、国際センター国際交流部門担当であり、就職支援についてはキャリアセンターから別途分析され、大学に提言あるいはセンター活動の改善に役立てられることになっている。

提言1 留学生支援窓口の多元化・明確化と有機的連携

- 1) 留学生専門教員及び部局の留学生担当者を含めた留学生支援担当者の会合を定期的に組織・開催する。
- 2) 情報共有(成績、経済状況、保険加入、健康状態、問題行動履歴)のための留学生データベースを作成する。
- 3) フルタイムの相談員を雇用する。

調査結果からの提言根拠: 素データより、指導教員に不満足な学生は全体的に不満足評価を示している。このような学生の相談相手は留学生友人に限られ、相談窓口は国際センターのみである。また、相談相手は誰かという設問で「相談する人がいない」と答えた学生が 5.3% (24 人) と非常に多い。

現状説明: 留学生専門教育教員や部局の留学生担当者の有機的な連携支援体制が全学的に組織されていないため、留学生の問題の共有化が図られていない。留学生は日本人学生とは異なる経済・文化・政治を背景としており、有する課題とそれへの対応は、大きく異なる。その問題に専門的に対応できる相談員が必要であるが、現在は、パートタイムであるため時間に大きな制限がある。連携支援体制拡充に向けてセンター長には 9 月の時点で国際推進委員会議題用の提言書類を送ったが、対応せず。

提言2 全学的なカリキュラムの見直しと大学院生への受講指導体制

- 1) 学生にカリキュラム・シラバスを評価してもらい、適正なコマ数・シラバスが提供されるようにする。今年度前期・後期を受けて、授業評価に加え、コースのカリキュラム・シラバスの評価を実施し、結果を委員会で検討する。
- 2) 大学院留学生には多言語にて科目受講に関する相談・指導を行う体制をつくり、能力と専門にあわせた受講ができるように支援する。

調査結果からの提言根拠: 全体的に満足度が昨年度より下がっている。その中でも特にカリキュラム満足度が低い。

現状説明: 教員・非常勤の定員削減を受けて、開講されない講義も増えている。シラバスと授業に乖離がある。学部生と違い、教員チューターのいない留学生は、受講科目についても情報不足で適切に科目選択ができていない場合がある。これまで単位不足で卒業できない例もあった。

提言3 日本語・日本事情の拡充

- 1) 最もニーズの高い会話学習ができるように、日本語・日本事情クラスの定員を少なくする。そのために開講コマ数を確保する。
- 2) 次にニーズの高い日本の社会と文化、論文作成、ビジネス日本語・マナーなど開設クラスの多様化を図る。

調査結果からの提言根拠：国際センター日本語クラスを不十分とする留学生が 28% (127名)。具体的にニーズは、会話練習が 68 名、社会文化が 49 名、論文の書き方が 17 名、ビジネス日本語・マナーが 8 名であった。

現状説明：新年度より、教授 1 名が協定関係で講義からはなれ、助教も授業を担当する予定はない。元短プロの教員と指導部門教員がそれぞれ 4~5 コマ担当するが、十分ではない。国際センター国際教育部門の専門教員組織に改善権限が与えられていない。

提言4 留学生データベースの作成

- 1) 留学生が国民健康保険、住宅保障保険などに入っているか、どこの研究室に在学していたか、奨学金、授業料免除、ビザの状況はどうか、広大に入学してからどのような問題（入院、事故、警察関係）を経験しているかなど、をデータベース化する。

調査結果からの提言根拠：留学生が相談する相手は、指導教員がもっとも多いが、国際センター、保健管理センター、ハラスメント相談室と多岐に渡っている。つまり、相談を受けた部署は、一から学生にあらゆる情報を聞かなければならず、他の相談窓口での対応状況も一つ一つ聞いていかなくてはならない。

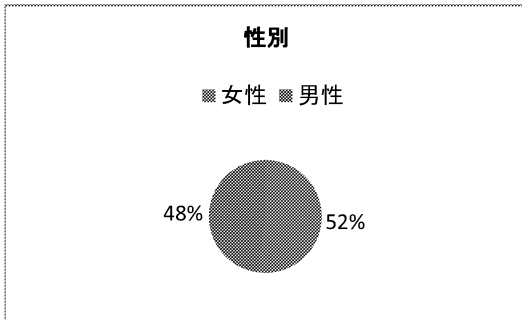
現状説明：相談に関する個人情報、秘密厳守であるのは当然であるが、基本的かつ重要な情報（健康、経済、ビザ、学習適応問題）などは個人からすべてを聞きだせることも少なく、効率的に相談・助言を行うためには必須であることから、情報の共有が必須である。

以上の提言は、調査報告とともに浅原学長に提出し(3月)、次年度5月に新センター長へ再度提出を行い、今後の対応について話し合うことができた。提言1については、留学生支援担当教職員連絡会という形で徐々に進められており、提言4については、交流部門が進める方向となっている。提言2については、留学生に特化せず、全学的に取り組むこととなっている。提言3については、国際センター国際教育部門内でできるところから取り組む予定。2011年度から新規授業として「論文作成法」を開設している。

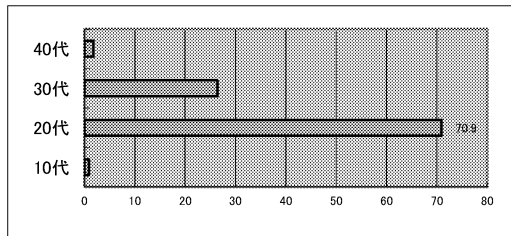
2010年度留学生支援調査報告

広島大学全留学生1169名に配布し、回答者は453名(38.8%)であった。

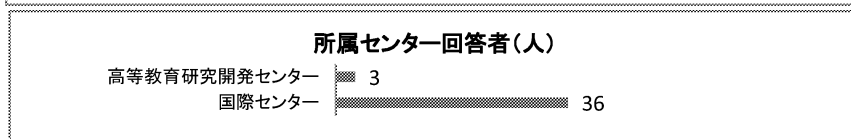
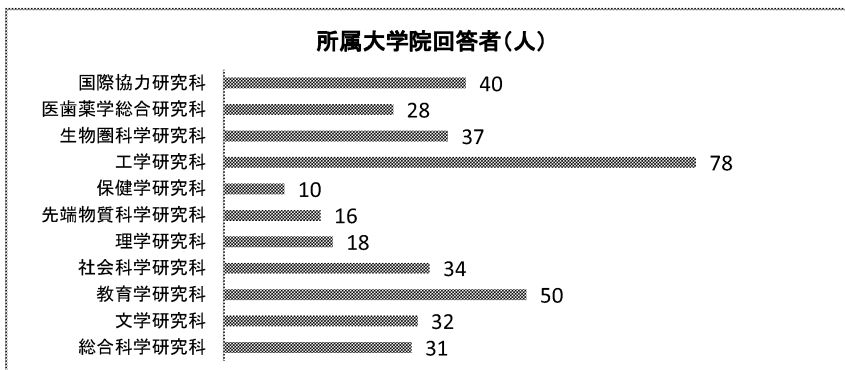
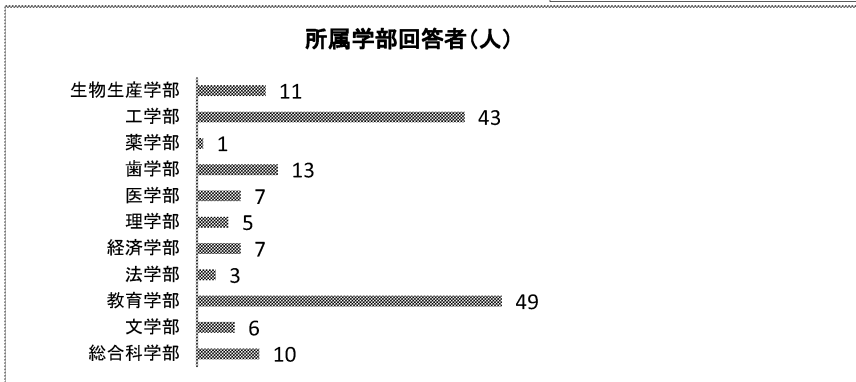
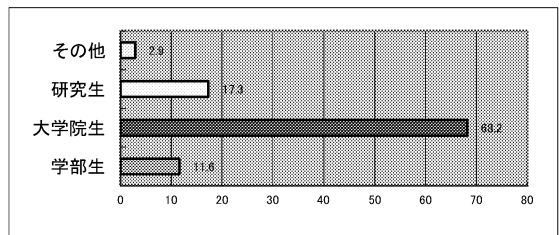
1. 回答者属性

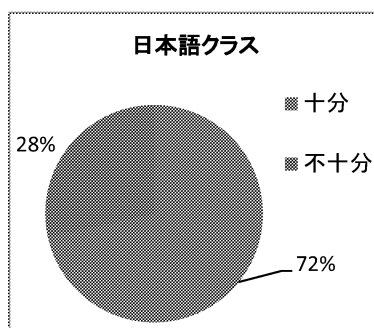
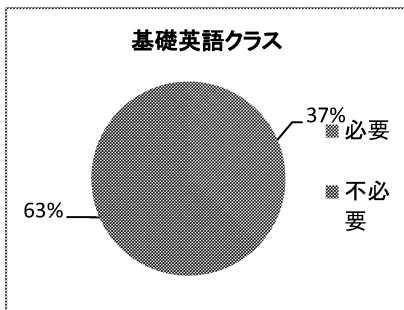
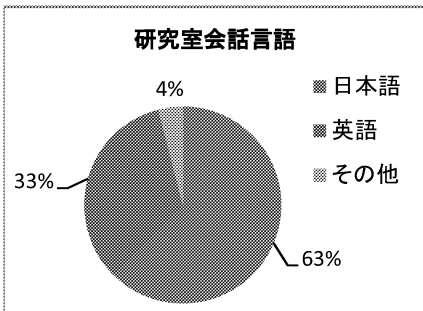
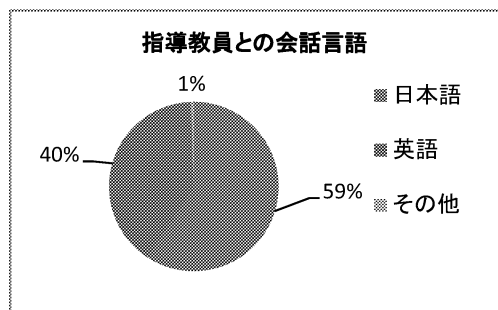
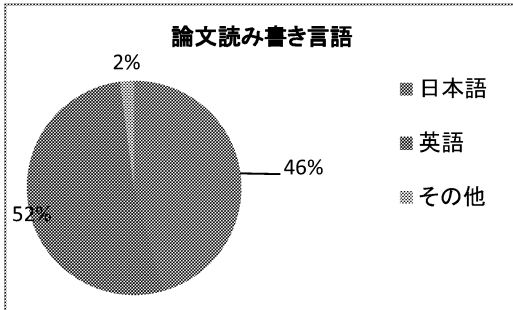
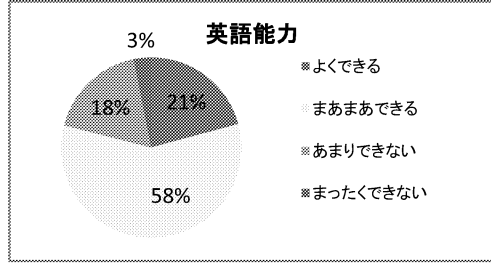
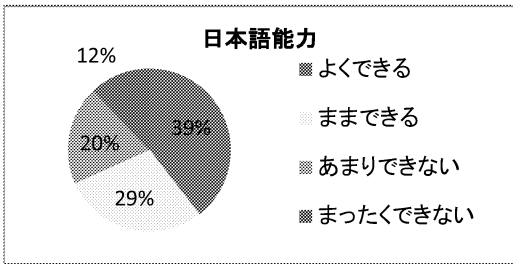
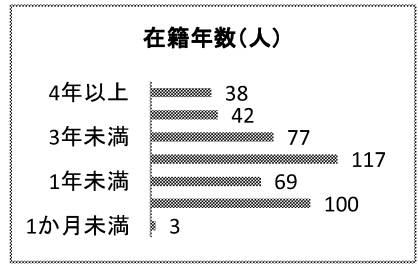
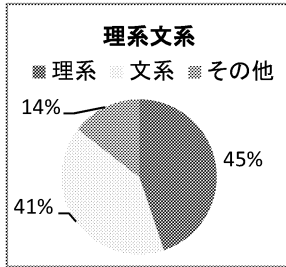
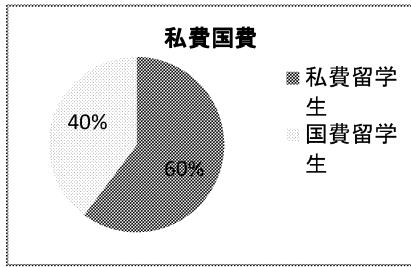


出身国・地域	%	人数
中国	52.5	236
インドネシア	6.2	28
韓国	6.2	28
マレーシア	5.3	24
バングラデシュ	2.8	13
その他	26.7	120
合計	100	449



所属





2. 留学生支援について

質問「留学生支援」あなたは、国際センター・キャリアセンター・ハラスメント相談室での留学生支援は十分だと思いますか」

十分と回答した人は86%、不十分だとした人は14%であった。

不十分理由

センターのことが知らないです。

東千田キャンパスから行くと、非常に不便と思います。

I haven't recieved any special supports

何だか頼りのない感があって一度も利用したことがない。

霞キャンパスに少くないです。

I haven't go to the International Center

私の場合は一回も行ったことがないです

遠く感じます。相談などできると思えない。

I'm new here now I don't know. しつれいしました

あまり使ったこともないし、気軽に使えない。もっといろんなイベントを開くべき。

Not enough information of living & scholarship

Career information for foreign stuelents is not enough.

支援というものがあまりないと思います

就職活動に対する支援は改善できる場所があると思います。

日本にきた時の説明会以外は留学支援を受けたことがない

留学生向けのアルバイトの情報などをもっと題供していただきたいです。

あまり聞いたことがないし、もみじからの発信も少ないかもしれませんが。

その部置はどんなところかいまも十分に知りません

国際センターではどう事が相談できるか分らない。

困ったことがあったら、それは限りだといって、助けてくれない。

留学生支援具体的なことよくわかりません。

あまり利用していない。何の機能を持っているか分らない。

It's may unilateral but I really need some advice on application for s
cholarship.

I DONT KNOW ABOUT IT AT ALL

まだ使ったことがないのでよくわかりません。

よく分りません。

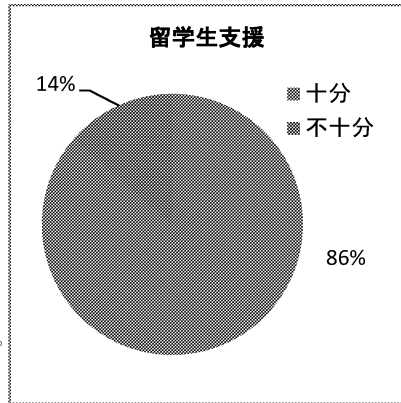
この情報はわからない

経験したことがありません

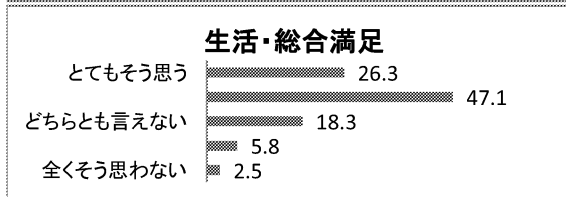
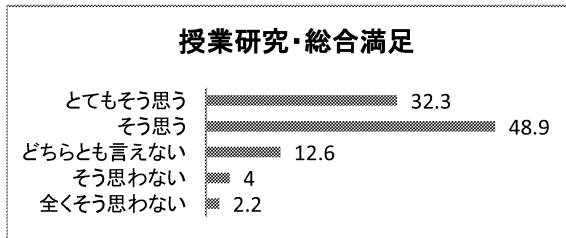
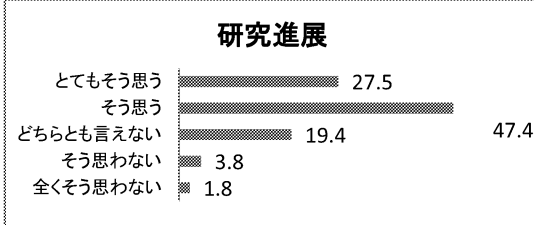
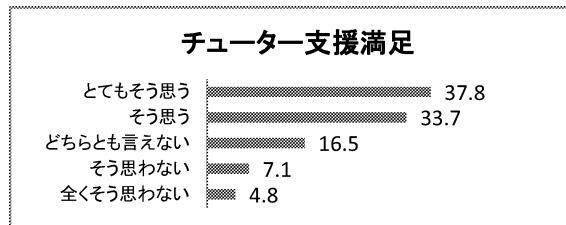
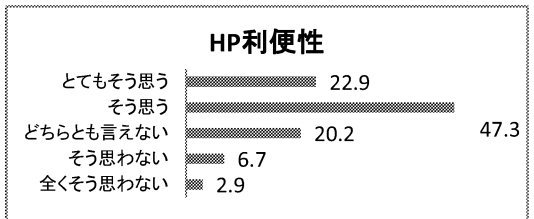
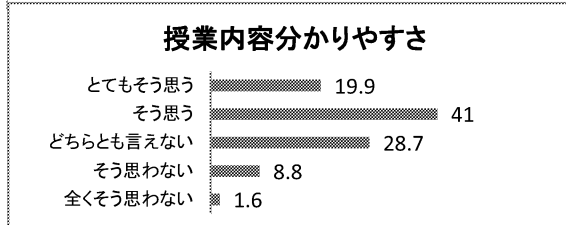
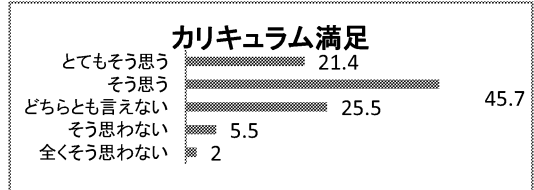
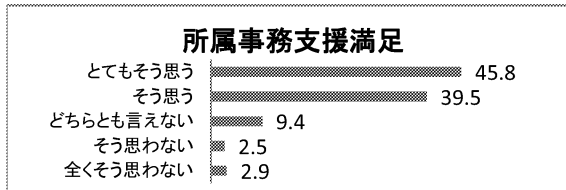
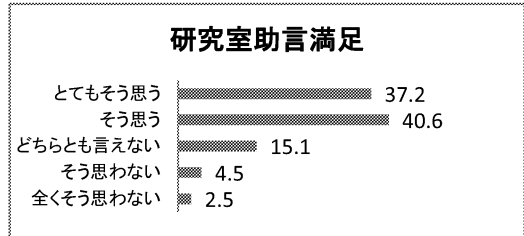
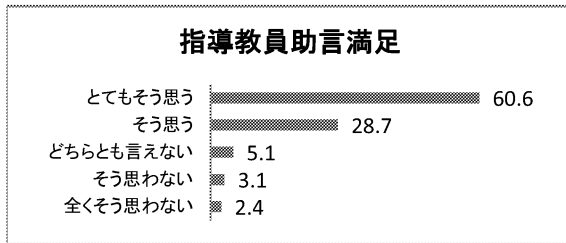
どのような支援があるのかも分りません。

よくわからない。

広島市内の留学生にとって不便だ



3. 広島大学修学・生活に対する満足度



前年度との満足度平均値の比較

「とてもそう思う」を5、「そう思う」を4、「どちらともいえない」を3、「そう思わない」2、「全くそう思わない」1として数値化し、平均した値を比較した。

満足度	平均	
	2009年度後期	2010年度
指導教員助言	4.47	4.39
研究室助言	4.1	3.98
所属事務対応	4.2	4.19
カリキュラム	3.9	3.69
授業の内容	3.71	3.61
広島大学HP	3.82	3.76
チューター	3.93	3.79
自分の研究	3.94	3.88
授業・研究総合満足	4.13	4
生活総合満足	3.93	3.86

4. 困っている事		%	人数
経済	いいえ	53	239
	はい	47	212
	合計	100	451
人間関係	いいえ	72.9	329
	はい	27.1	122
	合計	100	451
言葉・習慣	いいえ	70.7	319
	はい	29.3	132
	合計	100	451
学術研究困難	いいえ	55	248
	はい	45	203
	合計	100	451
その他	いいえ	97.3	439
	はい	2.7	12
	合計	100	451

相談窓口

		%	人数
国際センター	いいえ	29.9	135
	はい	70.1	316
	合計	100	451
保健管理センター	いいえ	20.4	92
	はい	79.6	359
	合計	100	451
キャリアセンター	いいえ	62.1	280
	はい	37.9	171
	合計	100	451
ハラスメント相談室	いいえ	78	352
	はい	22	99
	合計	100	451
ピアサポートルーム	いいえ	95.8	432
	はい	4.2	19
	合計	100	451
アクセシビリティセンター	いいえ	95.8	432
	はい	4.2	19
	合計	100	451
なんでも相談窓口	いいえ	91.1	411
	はい	8.9	40
	合計	100	451

5. 困ったときの相談相手		%	人数
チューター	いいえ	72.3	326
	はい	27.7	125
	合計	100	451
指導教員	いいえ	53.2	240
	はい	46.8	211
	合計	100	451
その他教員	いいえ	95.6	431
	はい	4.4	20
	合計	100	451
職員	いいえ	90.2	407
	はい	9.8	44
	合計	100	451
研究室友人	いいえ	65.9	297
	はい	34.1	154
	合計	100	451
留学生友人	いいえ	35.3	159
	はい	64.7	292
	合計	100	451
相談する人がいない	いいえ	94.7	427
	はい	5.3	24
	合計	100	451

相談する人がいないと回答する人が24人も存在する

5. 就職関連項目

日本企業就職希望が半数の220人も存在している。面接の受け方が必要だとする学生は174人と最も高く、続いて日本語170人、ビジネスマナー150人、履歴書の書き方149人となっている。早急に留学生を対象としたキャリア教育が対応が必要であることは明白である。

		％	人数
日本企業就職希望	はい	50.2	220
	いいえ	49.8	218
	合計	100	438

		％	人数	
就職活動支援ニーズ	日本語	不必要	62.3	281
		必要	37.7	170
	合計	100	451	

		％	人数
エントリーシートの書き方	不必要	70.5	318
	必要	29.5	133
	合計	100	451

		％	人数
筆記試験対策	不必要	72.1	325
	必要	27.9	126
	合計	100	451

		％	人数
履歴書の書き方	不必要	67	302
	必要	33	149
	合計	100	451

		％	人数
面接の受け方	不必要	61.4	277
	必要	38.6	174
	合計	100	451

		％	人数
ビジネスマナー	不必要	66.7	301
	必要	33.3	150
	合計	100	451

日本企業就職希望

	はい	いいえ	合計
総合科学部	5	5	10
文学部	3	3	6
教育学部	25	23	48
法学部	3	0	3
経済学部	4	2	6
理学部	2	3	5
医学部	1	6	7
歯学部	6	6	12
工学部	14	29	43
生物生産学部	1	10	11
合計	64	87	151

所属大学院	はい	いいえ	合計
総合科学研究科	18	13	31
文学研究科	18	14	32
教育学研究科	17	31	48
社会科学研究科	22	11	33
理学研究科	9	9	18
先端物質科学研究科	6	9	15
保健学研究科	5	4	9
工学研究科	36	40	77
生物圏科学研究科	16	20	36
医歯薬学総合研究科	14	13	27
国際協力研究科	14	25	39
合計	175	189	365

2010年後期留学生支援調査 日本語クラスのニーズ

1. 基礎英語クラス 必要164名 不必要280名
2. 国際センター日本語クラスについて 十分 310名, 不十分 127名
3. 必要なクラス (回答者207名) 希望: 会話 68名、社会文化 49名、論文書き方17名、ビジネス 8名 (のべ人数)

キーワード	原文 (自由記述)
1 会話	Conversation class
2 論文	論文の読み方とか、書き方とか勉強したいです。
3 会話	話す
4 日本社会	日本の社会
5 上級文法	高級日本語学習者向けの、ごとと文法の用法よく説明してくれること。
6 論文	レポートとか論文とかの書きかた
7 基礎	Basic Elementary Japanese Course
8 日本社会	日本社会の情報
9 論文	ビジネス日本語。論文に関する学術的な作文の授業 (クラス) がほしい
10 実用	実用性の高いクラスが必要だと思います。
11 歴史	歴史
12 会話	To talk and listen
13 会話	日常会話
14 コミュニケーション	文化の違いコミュニケーション手法
15 ビジネス	ビジネス日本事情
16 文化・就職	文化また就職に関するものの説明、紹介
17 弁論	弁論クラス
18 会話	Conversation Oriented
19 日本文化	日本文化におけるクラスが必要だと思う
20 映画	映画かん賞
21 社会生活	Social Life in Japan
22 文化史	日本文化史
23 会話	会話の能力向上するための授業
24 漢字・文法	Kanji & Grammar
25 会話	会話クラス
26 交流会	交流会
27 生活	日本の日常生活について説明のクラスです。
28 歴史	歴史
29 基礎	Level 1 and Others
30 日本文化	The Japanese class contents acould include more culture about Japan
31 上級クラス	日本語はバリバリしゃべれるけど…的な感じの人の為のクラス。
32 基礎	Intensive
33 会話	日本語会話
34 会話	One-to One
35 上級	上級のクラスが必要です
36 生活・社会・文化	日本の生活習慣とか、社会文化についてのクラスがほしい
37 実用	もっと実用的なクラスがほしいです
38 会話	Conversation Class
39 会話	Speaking Class
40 基礎・中級	Basic + Advance
41 映画 ビデオレンタル	字幕をつけてる映画、ビデオのレンタル (rental)
42 レベル2	Second Level Japanese
43 映像日本語	映像日本語
44 会話	日本人学生とのコミュニケーションの機会がたくさんあるクラスを作ってほしい
45 歴史	History based classes
46 会話	文法上級、会話または議論
47 会話	会話のクラスが必要です。
48 会話	日本の学生さんと留学生の交流みたいな形
49 生活文化	基本と生活と日本の文化

50	すべて	All
51	会話	Classes focusing more on speaking Japanese not just learning grammar
52	会話	Conversation Class
53	会話	Conversation Class
54	会話	Oral, Speaking class
55	会話	会話とか、作文とか、とにかく実際に日本語を使うチャンスを提供できるクラス
56	語彙	語彙
57	文化	日本の文化。
58	異文化間比較	International culture between Japan and other countries
59	東千田の充実	東千田町にはないですね
60	会話	会話練習などが必要です
61	研究	科学研究に関する
62	英語による教授	Teachers need to use English for teaching Japanese
63	会話	日本語会話
64	就職・文化	就職活動関連、日本文化関連
65	会話	口語課
66	会話	日本人と話せる。日本の伝統文化を教えもらて、皆さんと一緒に参加できるクラス。
67	文法	文法
68	歴史	History of Japan
69	会話	Japanese conversation
70	漢字・文法	Kanji intermediate then advanced Japanese
71	会話	Conversation Class
72	デジタル教科書	From 4th level books are difficult to read. If there are soft copy of book, we can read it by computer. Only students from Intensive course can continue to 4th level.
73	会話	Conversation Class
74	会話	Japanese for business communication
75	聴解・文化・社会	日本語の聴解と日本社会、文化
76	社会・文化	日本社会あるいは日本文化に関すること
77	会話	Daily conversational features of Japanese culture
78	常識・マナー	常識とマナー
79	文化・生活	日本の伝統文化／日本人の生活／福祉社会など
80	基礎	Basic learning with more time
81	基礎	Beginning Japanese language classes
82	漢字・レポート作成・プレゼン	Kanji class, Presentation and writing paper in Japanese
83	基礎	Japanese 2A, B, C
84	会話	会話のクラス
85	体験	体験できるようなクラス
86	会話	会話。
87	日常	日本語クラスにもっと日常的なことを教えてほしい
88	上級	日本語がよくできる人向けのクラスがあればいいと思います
89	文化・マナー	日本文化、礼儀、習慣などを教えるクラス。
90	論文	日本語で論文の書き方
91	会話	コミュニケーションなどのクラス
92	会話	日本語会話。日本語文法。日本概況。
93	歴史	日本の歴史についての、留学生向けの授業があつてほしいです。
94	論文	広島国際センターが主催した「高等講座」（論文の書き方、読解口頭発表など）のようなクラス、ビジネス日本語通訳日本観光ガイドなど高級レベル、専門レベルのクラス。
95	会話	日本語の会話
96	上級	「日本語JTEST900点をめざすクラス」のような…
97	会話	日本語日常生活会話のクラス
98	会話	日本語対話／会話
99	検定試験対策	JLPT Preparation Classes
100	論文	日本語で論文や文章の書き方についてのクラス、とくに大学院留学生にむける授業

101	映像日本語	映像日本語
102	論文	論文についての授業が欲しい
103	会話	会話教室
104	論文	日本語で文章の作り方などの上級クラスがほしいだと思ふ
105	上級	上級日本語クラスもあってほしいと思います。
106	基礎	Intensive Japanese course I just fine
107	会話	Conversations Class
108	社会文化	日本社会・文化
109	翻訳・通訳	日本語と中国語の翻訳授業と通訳授業
110	基礎	Basic Class
111	会話	Communication skill
112	文化社会	日本の紹介、日本人の相談情報
113	論文	論文の書き方
114	敬語	敬語についてのクラスが必要です。
115	会話	日常会話
116	霞 中級	霞キャンパスでの日本語クラスは現在初級のレベルしかない。より上級の授業が望ましい。
117	検定試験対策	日本語試験、たとえばJLPT、JTESTの練習。
118	会話	Situational Dialog
119	自習教材	Support some reference or audio to learn Japanese by ourselves
120	交流	よく日本人と話せばいいと思います。
121	会話	話すにいつて
122	会話	日常会話練習
123	文化	日本の文化と現在の状況をもらいたい
124	文化・企業	日本の民俗、日本の企業
125	基礎	N1レベルのクラスが必要だと思います。
126	文化	日本の文化についての授業
127	会話	会話 文法 漢字
128	ビジネス	営業などに使われる日本語
129	英語での日本文化	about Japanese culture in English
130	漢字	Everyday Kanji Usage more conversation classes
131	会話	Communication Class
132	体験	Information not just by learning but also I can experience it.
133	文化歴史	Introduction of Japanese culture and history
134	会話	会話クラス
135	会話	Conversations & How to solve daily need's problem
136	論文	論文などを書くために使う日本語
137	伝統音楽	Classic Music
138	集中コース	Intensive course for Japanese Language
139	社会文化	日本事情クラス
140	社会文化	社会・文化・礼儀に関するクラスが必要です。
141	伝統文化	Traditional tea ceremony dance& culture
142	伝統文化	Japanese traditional culture
143	伝統文化	Traditional Japanese culture
144	芸術	arts
145	特別コース向けクラス	Japanese class aiming at special course students
146	マナー	敬語、礼儀など
147	敬語	言葉づかいについてのクラス
148	会話	会話
149	上級	上級日本語クラス
150	専門用語	Teaching term in Japanese
151	漢字 生活	Kanji, real life Japanese
152	実用	More Practical and active classes(ex. Field trip)
153	社会	Something about modern Japanese Youth
154	会話	日常会話

155	集中コース	Intensive class
156	漢字	Teaching to write kanji
157	会話	Conversations
158	基礎	Basic class
159	漢字	Kanji Teaching and Phrase classes
160	会話 文法	Speaking & Grammar
161	歴史 文化	日本歴史文化
162	文化	日本人の習慣
163	論文書き方	特にありませんが、私のようにもうすぐM2になる人にとって卒論に関する指導（基本的書き方）が必要ではないかと思えます。
164	ビジネス	ビジネス日本語がすごく必要と思う
165	会話	もうちょっと日本の職場や、日常生活に近づく、ヌビギニング授業がほしいです。
166	会話	会話クラスが必要です。
167	語彙 作文 聴解	語い、作文、聴解
168	伝統文化	Traditional such as Japanese dress and food
169	生活	日本生活に近いクラス
170	論文の書き方	論文の書き方などを指導するクラスがほしいです。
171	文法 論文	文法、論文作成
172	生活 文化 社会	日本人生活・習慣・思想・やり方
173	社会文化	日本事情クラス
174	社会	日本、また国際経済についての情報
175	文化 マナー	生活習慣（注意点とか）、日本人との接し方、日本のマナー
176	伝統文化	伝統的な日本の文化の学習ができるクラス。例えば：茶道、生け花など。
177	会話	Communication Class
178	論文の書き方 プレゼン	論文の書き方、発表の用語などが必要だと思います。
179	論文の書き方	論文を読み、書きについてのクラス
180	会話	会話クラスが必要だと思います。
181	上級	More advanced class
182	生活 会話	Japanese daily life behavior and communication at the workplace
183	会話	会話しましょ
184	会話	日本語口語のクラス
185	生活 文化 社会	今の日本人の生活習慣
186	上級	Higher Level
187	漢字	Kanji Class
188	論文の書き方	小論文や、研究計画の作成方法クラス
189	文化	日本の文化の特徴を教える授業
190	会話 生活	Food communication Daily life
191	会話	会話の授業
192	会話	話せることができるクラス
193	会話	自然に日本人のように話せるようにさせる会話の授業
194	文化	文化について
195	論文	日本語論文作成についてのクラス
196	会話	日本人と直接会話するクラス
197	会話	先生が教えるのではなく学生がいっぱい喋れるclassがいい
198	スピーチ	日本語でスピーチさせるクラス
199	文化	礼儀、文化、流行（ファッション）
200	会話	Oral Japanese class
201	会話	会話練習クラス
202	スタディーツアー	Study Tour
203	会話	Conversations Class
204	クラス増	クラスの数十種類が増えてほしいです
205	ビジネス	ビジネス日本語など試験向けのクラス
206	伝統文化	Japanese Traditional sport like Kendo& Kyuudo
207	会話	日本語会話

2011年度 留学生支援調査 自由記述意見・相談

52名から自由記述意見・相談があった。この相談への対応は、国際センター国際交流部門奨学金・宿舎等の担当である甲田主査、交流・生活担当の小倉研究員、心理相談員である小島臨床心理士、中矢で回答・対応を協議した。

1	国際センターの色々な活動はどこから知らせますか？	国際センター広報
2	博士後期課程に進学してから、前期と逆に、経済的な支援は受けていない状態が続いています。学業と生活の両立は難しいです。	経済
3	I suggest that we can have a Group study for students from defferent field. For those Who are interested to listen to other Students' idia from different kind can join in. This might be helpful to improve a creativity in Writing Mesters' or PhD thees is. (5in a group)	授業開設(論文作成)
4	東千田にも英語クラスを開いたら大変助かりだと思いますから、お願いします！	英語クラス
5	I saw many unused bicycles parking in parking of university. Those occupt places and useless. I suggest some one collect and lend those to new coming foreign students. It's very worthful. I think.	廃棄自転車有効活用
6	広島大学は私費留学生に向いていないと思う。(主にマスター学生以下)奨学金も難しく(留学生が多いの上、ドクター以上の学生が優先されるため、学内選考でさえ通るのが難しい)、(東広島市がかなり畚田だからだと思うのですが)留学生を受け入れてくれるアルバイト先を見つけるのが非常に大変です(日本語能力があっても)	奨学金・アルバイト
7	I think japanese classes should improved by better and English-japanese Methods	日本語授業
8	このアンケートがすごい理系の方の為って気がするの気のせいでしょうか…	アンケート
9	西条の価格が高いです。みんな市内へ買い物したいけど市内へ往復バスのチケットが高いです。学生割引がないから、ちょっと不便だと思います。そして入国手続きをする時市内へ行かなければなりません。もしよければどざとか同じように学校に提出したらいいかなと思います。	交通費・入国手続き
10	奨学金の推選基準が分からない。十回以上申請しても当たらないのか、むなしい。日本語もあまり話せない後輩まで当るのに、何んでいつもダメでしょうか？もしかして、誰かに嫌われているかな？	奨学金
11	I would like to know more about career Center of Hiroshima University	キャリアセンター
12	アルバイトを探す時、留学生と知ったら、「留学生ならご遠慮させていただきます」と断られる・奨学金の申請が難しいので、私費留学生はバイトに貴重な時間をかけて、勉強不足になりやすい・授業料免除の結果はショックしたりする。(特に免除なしの場合)経済的な保障が足りない	経済・アルバイト
13	こんにちは、私は●●と申します。広大に来てからいろんな方にお世話になりました。感謝しています。ただ唯一、理解できないのは、奨学金のやり方と学費免除のやり方です。本当に大変お金が困っている私には、今まで一円の免除と奨学金もいただいていない。毎日の生活費は500円にしている私です。	経済
14	Could you tell me is there any teachers want to recruit doctor student. My sister whoes Japanese is very well and accomplished her master degree this year wants to go on her study. Her specialization is Arts. Thank you very much.	家族就学
15	Overall I am very happy with the HUSA program. The level of support is very good and I have been made very welcome.	HUSA
16	広島市内の留学生の就職相談は不便で、情報も収集しにくくて、説明会の参加は東広島より不便だと思う。	就職
17	Please use enough English for international students instend of Chinese. That's why chinese students are crowded although international students from other countries are not populated.	言語
18	日本語勉強のために英語の文法や言葉をわすれました。だから、会話と国際に交流のために、英語のクラス(特に震で)を開いてはいただけませんか。よろしくお願いします。	英語クラス
19	Because I will stay in Japan for at least 6 years and Because I have free time Can you tell me how can I find a job? Please tell me by email.	就職

20	My wife is also a medical doctor anesthesiologist. She also wants to study in doctoral course and do scientific reseach. But we donot have funding for supporting her tuition. How can we apply for scholarships provided by Hiroshima University.	奨学金
21	食堂を改善してほしい。	食堂
22	ちょっとおかしいことを聞きたいですが、広島大学の授業料や奨学金制度はなぜ結婚している人たちが優先ですか。一人暮らしはだめですか。実には、夫婦の生活は一人暮らしよりいいだと思います。留学生として、生活のために、結婚しないといけないですね。これから授業料免除や奨学金など、結婚を考えないでください。たぶん、私の理解は違いますが、実には結婚した人は授業料免除した人が多いですから。だから、以上の意見を書いています。よろしくおねがいします。	奨学金
23	I wish that one day the study in My Graduate school In English Including school all research classes presentation . . . etc. and our Graduate encourage Japanese students to communicate using English.	言語
24	I don't know what is abbreviation of HP-I don't have tutor	HP/チューター
25	奨学金の選考は適切ではないと思います。学年だけではなく、個人の経済的な状況、学業成績、研究成果(広島大学では学術論文が評価されますが、学会発表などの努力が全然認められません)により総合的判断をするのは適切ではありませんか。	奨学金
26	中国に帰る調査について、支援経費がまったくないので困るんですが、このことについての政策などをお伺います。	研究費
27	文学部が留学生についてのホームステイという活動がすくないと思う。私はとても参加したと思う。	ホームステイ
28	今月初、私のチューターが私にサインをしてもらいたいと言い、少し気になりました。私の記憶では、留学生とチューターとして会っていた事が、最近はなかったと思いますからです。ただコンサートやチューターの家に誘われて、一緒に時間を過ごしただけで、「本当に私を友達として会っていてくれるのかな」という疑問が起こりました。私が訊きたいことは、留学生としていつ、どんな内容の活動であればサインをするべきなのか。そしてこの後またこんなことがあったら、私はどんな考えを持つべきなのか、又、どんな行動をしたら良いのかが知りたいです。(あんまり深刻な状態ではなく、ただ一人の悩みです)	チューター
29	Since I have been here for junt 2 months and at the international center the ma ked questions could not be answered. How ever on of now everything in alright	
30	研究室ごとに、教員に対する評価制度がない(教員の自己評価と留学生からの評価)時には、留学生が不公平な待遇がされている。例えば、研究室のごみ、試薬、器具の管理と片付けは、日本人院生が全くやっていないの反対に、留学生がそれをやらないとすぐ叱られる。実験データがよくない場合、原因を分析するより、“勉強をしていない”、“考え方が怪しい”、“やっている事は全部怪しい”などの言葉で責めるのは通常のやり方。教員に対する監督評価制度がない限り、こんな事は終らないと思う。	教員評価
31	I am here a private student. This year(April/2010~March/2011)I have no scholarship I have applied many scholarship(6 Fiwes)this year all are rasreated by The Universits Authority alfpugh I have United scope to apply due to my over age I d on't know why they rejected my application.	奨学金
32	Do you have any English oral class to be prohided?	英語クラス
33	学業とアルバイトの両立はちょっと苦しいです。特に博士後期の研究はバイトする余裕をなくしているが、学費と生活費に困っています。奨学金は一ヶ国に一名という制度に疑問を持っています。中国からの留学生の数は特に多いですから。	経済・奨学金
34	The probleme that I beared in my mind from the time I came in japan is my concerning a bout residency in International house. I am PHD student and single. I'm allowed to stay in t he I-house just for 2 years. I was in saijo for 6 months. I had to carry and move all of t he staffs after 6 months to hiroshima. and I have to do again after 2 years. i was wonderin g if they could rent I-House for 3-4 years to PHD students. Specially giirls.	住居
35	総科のあり方に見直す必要あり	学科体制
36	最近留学生の増加で奨学金をもらうことが難しくなったと先輩からよく聞きました。人数が増えたので奨学金のもらえる数も増えてほしいです。よろしく願います。	奨学金

37	we private students really need economical support ! Especially we medical or dental students don' t have much time to do part-time job. It' s a severe request please.	経済
38	The contents of the classes one to rally differ from their titles. The english translation for some japanese name of master & PhD degree classes is odd haveby it may better to be cheaked.	カリキュラム
39	regular Econometrics classes is needed.	カリキュラム
40	留学生は留学生同士のみで交流しているケースが多いと思います。(とくに日本語があまり出来ない欧米系)。留学生と日本人学生が共に参加できるClassがあったらと思います。ex) social danceやsports classなど	交流
41	もみじで掲載するアルバイト情報は「留学生不可」なものが多い。全く平等にされていないと思う。	アルバイト
42	授業料の免除が難しく、奨学金の申請がもっと難しいから、研究に取り組むことが大変だった。留学生への援助、特に家庭状況が貧困の学生たちへもっと援助してほしい。	経済
43	Research might be more progressve if supervisors have a fixed schedule for invidual duscussins. In my opinion presenting in a large group seems ineffectiue.	指導体制
44	Major Events at HiroDai are not well markeded to the international student body. For example the yukate Matsuri or HiroDai Matsuri are advetised only in Japanese and no activities in voluing or gearel toward international students appear to be included in the programmes of these events. HP English site is sometimes out dated and lacking in student activity information.	交流・広報
45	中国の論文データベースを購入してほしい。(cnki)	データベース
46	英語会話のクラスがあったらやりたいです。	英語クラス
47	私費留学生の立場から授業料や入学金の免除することなどを考えさせてよろしいでしょうか。よろしく願いいたします。	経済
48	経済的な問題なんですが、個人的もすごく困るし、周りの留学生の友達も困る人が多いと思います。広島大学の文学研究科の出身で、私と一緒に来る友達はみんな今年の10月にM2に入ります。みんな何回か奨学金を申請しましたが、ほぼ全員落ちました。一年の時は勉強以外の時間を利用して、アルバイトして生活費を稼ぎますが、Master2に入ると、修論で忙しくなりますので、なかなかできなくなりました。もちろん全員奨学金を与えることは無理だと承知しますが、時々ほかの学部の留学生が授業料免除されたし、奨学金も一年か、2年もらったという話しが聞いたんです。文学部の留学生たちも毎日頑張って勉強してきましたので、学校全般のバランスのよい奨学金制度を作っていただければと思います。文学研究科M2留学生。	経済・奨学金
49	学校に全体的運動会などが無い。	交流
50	日本人と一対一で交流するclassがほしい。homestayも試したい	交流
51	奨学金の決め方と学費免除の標準は、客観的正確とは言えないと言われている。	奨学金・授業料免除
52	会話パートナープログラムをすすんでください。	会話パートナー

2010年度 Face to Face Project 報告

中矢礼美

はじめに

本報告書は、2010年度に全9回開催された『Face to Face Project』の活動内容を報告するとともに、その成果と課題を振り返り、広島大学における国際教育交流の方向性について考察するものである。

『Face to Face Project』は、旧留学生センターが実施してきた学長・留学生ミーティング、指導部門による相談、国際センターが実施してきた留学生支援調査で表明されてきた「もっと日本学生との学術的な意見を交換したい」という留学生のニーズに応えるためにスタートした。本プロジェクトの目的は、日本人学生と留学生とがグローバルな課題について意見を交換し、議論を深めることを通して、自らのグローバルリテラシー（グローバル時代を生き抜く力）を向上することである。2009年度は12月より月1回ペースで3回にわたって開催し、2010年度からは毎月1回開催し、2011年度の参加者のべ人数は、210名であった。

2010年度に本学が受け入れている留学生数は、66カ国1169人に上る(2010年11月)。留学生にとって、Face to Faceの意義は三つある。一つは、グローバルな課題について研究している成果をさまざまな分野の学生に対して発表することである。もう一つは、多様な国の留学生や日本人と、日常のキャンパスライフではなかなか行うことができない幅広いグローバルな課題についての議論を行い、自分の意見をさらに深化させたり、広めたりできることにある。さらに、Face to Faceでの知的ネットワークを活用し、活動外においても学生同士で切磋琢磨しながら成長できることである。

このプロジェクトに対しては、2010年度の参加学生から概ね高い評価を得ている。毎回プロジェクト終了時に配布するアンケート（自由記述欄）では、次のような感想が寄せられた。留学生によると、「違う国内民族の人や違う国と自分の国について討議したりして、更に国のことをわかるようになりました」「国際的な話をいっぱいして視野が広まると思います。みんな心を開いて、自分の国籍を忘れて、普通の人間として、真実の気持ちや考え方を聞いてくれて、嬉しいと思います」などが書かれている。日本人や他国の留学生と話すことで自国理解が進み、国籍を超えたグローバルな人間としての意見交換を心から喜んでいるようである。また日本人学生からも「実際に住んでいた留学生の方々から話を聞けるのは本を読んで勉強すること等の100倍以上の価値がある」などの感想が寄せられている。海外留学をする日本人学生数が依然として少ない状況にあることを考慮すると、このような機会は日本人学生にとっても貴重な場となる。旧留学生センターが実施してきた国際交流ボランティア活動では、チューターや会話パートナーや交流会で友人となるきっかけを得ることはできていたが、学術的な論議を行うような関係に発展するのは困難であった。このFace to Faceにおいては、日本人学生がより留学を真剣に考え留学を選択しなくても広島大学においてグローバルな人材として育つ有益な場となるだろう。

無論、後述するようにFace to Faceには様々な課題も残されている。外国語を用いての議論の難しさ、知識量によるレベルの違い、短時間での議論の深化の難しさ等である。

2011年度に向けて、いかなる課題をどのように克服していくのか、本報告書を通してさらに質の向上を続けていきたい。

I. プロジェクトの概要

1. 目的

世界ではさまざまな問題が起こっているが、メディアによる偏った情報や狭隘な視点からは、その問題そのものの本質、そしてその背景にある諸要因について理解することが困難である。本プロジェクトでは、多様な国家アイデンティティや主義・主張をもつ人々が、その視点でもって多角的な議論を行ない、諸問題を国際関係の中で捉えなおすことを通して、論理的・合理的・批判的な情報処理能力を身につけ、各自がグローバルリテラシーを強化することを目的とする。

2. 内容

毎月一人、留学生もしくは日本人学生が各フェーズのキーワードに沿った発表を行う。発表を受け、グループ内で議論を深める。グループ討議終了後、各グループの代表者が議論のプロセスと結論について発表し、全体共有する。また、参加者は事前にトピックに関する知識や情報を調べ、生産的なグループ討議を行うための準備しておく。

3. 開催日時

8月と3月を除く年10回、毎月月末16時～18時

4. 年間予定（実際には、予定は若干変更した）

フェーズ1（4月～7月、全4回）

テーマ：パワーバランス —政治・経済の多層的理解—

議論の内容：二国間関係にまつわる時事問題を取り上げ、問題が二国間に留まらないことを認識した上で、グローバルな視座から俯瞰した議論を展開する。

フェーズ2（9月～12月、全4回）

テーマ：人の移動とグローバルネットワーク —影響と機能—

議論の内容：世界人口の内、一億人を占める移民や留学生や企業など越境して活動を行う人々と受入国との関係、移民が構成するネットワークの機能について議論する。

フェーズ3（1月～2月、全2回）

テーマ：世界を担う力 —Think Globally, Act Locally—

議論内容：これまでフェーズ1と2で議論してきた大きな枠組みで世界を捉える視座を総括し、21世紀を生きる人類に必要なとされる力について議論する。

5. 実施した各回のテーマ

第1回 2010年4月27日（火）

テーマ：在日米軍基地問題

発表者：酒井 徳（アメリカ、国際協力研究科）

タイトル：パワーバランス：在日米軍基地問題

Balance of Power: The U.S.-Japanese Base Issue

第2回 2010年5月28日（金）

テーマ：中国の経済発展と地域間格差

発表者：汪 洋（中国、社会科学研究科博士課程前期2年）

Economical Development & Regional Gap in China

- 第3回 2010年6月30日(水)
テーマ：パワーバランス
発表者：チェン・ジャホイ
タイトル：シンガポールとマレーシアの関係
- 第4回 2010年7月21日(水)
テーマ：国民国家と移民 Nation-State and Immigration
発表者：齊藤稔夫（日本，教育学研究科博士課程前期2年）
タイトル：サッカーW杯に見る移民の活躍とハイブリッドなナショナルチーム
Enormously energetic activity by Immigration and hybrid national teams in the Soccer World Cup 2010
- 第5回 2010年10月28日(木)
テーマ：グローバルに活躍する若手リーダー
発表者：ルシアーノ・フレイタス（ブラジル，国際協力研究科博士課程後期3年）
タイトル：国際社会の専門家ネットワーク：グローバルな対話にむけて」の発表
- 第6回 2010年11月25日(木)
テーマ：次世代クリーンエネルギーと展望—フランス小型水力発電会社の事例から—
Next Generation Clean Energy and its vision- A case of compact hydraulic power company in France
発表者：ギュルヴァンマヤール・ドゥ・ラ・モランデ（フランス，HUSA留学生）
（Gurvan Maillard de La Morandais, France, HUSA student）
- 第7回 2010年12月21日(火)
テーマ：留学生が日本で就職する動機～自身のインターンシップ経験をもとに～
The motivation to work in Japan for International students ~based on her experience of internship~"
発表者：陳 曦（中国，HUSA留学生）
Chen Xi（CHINA,HUSA student）
- 第8回 2011年1月21日（金）
テーマ：Cross-Cultural Communication
発表者：本田秀一（日本，文学部1年）
International Cafe～学生主体の国際交流活動の意義～
スザンネ・ロバート（オーストリア，HUSA留学生・教育学部所属）
Ich studiere japanology～わたしが日本語を学び始めたきっかけ～
- 第9回 2011年2月9日(水)
テーマ：グローバル・リテラシーとは
What is Global Literacy and How to improve it?
発表者：齊藤稔夫（日本，教育学研究科博士課程前期2年）

6. 活動の流れ

発表と議論は以下の手順に沿って行った。

- 1) プレゼンテーション（質疑応答を含み30分）

発表者が各回のプロジェクトテーマについて発表する。プロジェクトテーマは、グローバルな課題とする。(発表者は、主要メンバーによる紹介やプロジェクト参加者の中からの希望によって募った。)

参加者は、プレゼンテーションを聴きながら、あらかじめ配布されている付箋紙に自分の意見や疑問を1枚に1事項書いていく。

2) グループディスカッション (30~40分)

参加者は、ワーキンググループに分かれる。グループは、日本人学生と留学生が各テーブルに混在するように配慮するが、日本語でのディスカッショングループと英語でのディスカッショングループに分かれる。難しい場合は、適宜英語話者には通訳を行う。

① KJ法での話し合いの場合

各テーブルで自己紹介を行った後、全員が自分の書いたメモを模造紙に貼りながら簡単な説明を加える。付箋紙を貼る際には、後続の人は既に貼られている意見と同意見のものはなるべく近くに貼っていく。

ディスカッションを通じて得られた知見を模造紙1枚にまとめる。

② ディベートの場合

各テーブルで自己紹介を行った後、その回のプロジェクトテーマの命題について賛成と反対に分かれ、議論を行う。付箋紙に「賛成」「反対」の根拠となる根拠を書いていき、相容れない意見と歩み寄れる意見とに分けていく。

通常のディベートと違い、結論は導くことなく、反対意見との議論を通しての気づきを通して自分の思考を深め、広げることを目的とする。

3) グループ討議発表

各グループは議論のプロセスと結果について発表する。

なお、発表については事前に内容について中矢がチェックを行い、当日も主要メンバーとともにファシリテーターとなって、議論を深めた。

II. 各回の報告

各回の参加者概要と議論の流れについて報告する。

「概要」は、学生コーディネーターである齊藤稔夫君(教育学研究科)の報告による(第4回については柳楽君による報告)。

第1回 2010年4月27日(火)

テーマ：在日米軍基地問題

発表者：酒井 徳(アメリカ, 国際協力研究科)

場所：学生会館2F レセプションホール

参加者数：18名(教職員4名, 留学生9名, 日本人学生5名)

※所属—総合科学部, 理学研究科, 教育学研究科, 国際協力研究科

※国籍—日本, 中国, シンガポール, NZ, チェコ, USA, ロシア, フランス

概要：

2010年度の初回だったが、参加者が多くはなかった。授業が重なり参加できなかった学生も多く、今後の日程設定では出来るだけ参加者の集まりやすい日時を選ぶことが課題となった。

今回のテーマは在日米軍基地問題であり、非常にホットな話題だったので、グループ討議ではこれまでのKJ法による思考マップの作成をするのではなく、グループ内で米軍基地の存続に賛成する人と反対する人に分かれ、ディベート形式で議論を行った。酒井さんのプレゼンテーションでは、第2次世界大戦以降、沖縄が経験してきた歴史を踏まえ、米軍に対する沖縄県民の従属感を紹介する一方で、東アジアの地政学的条件を鑑み、米軍が台湾、中国、北朝鮮有事に対する抑止力として機能することにも触れ、沖縄に米軍が駐留することはやむを得ないと結論づけられた。発表後の質問では、軍事抑止力に対するアメリカ政府の立場や国際協調路線に対する意見も飛び交い、グループ討議に繋がる意見交換が行われた。

グループ1では、反対派が一人のみだった。中矢先生が討議に加わったこともあり、ガンディーの思想とグローバル・シティズンシップの視点から軍事基地が置かれるという状況を深く自分の事として捉える方向性が議論された。

グループ2では、駐留に賛成する立場からは、経済的な恩恵、現状維持によるコスト、東アジアの安定のための抑止力といった意見が、駐留に反対する立場からは、国際協調の時代、日本国の主権、沖縄県民の不安といった意見が、それぞれ出された。

グループ3では、国内事情と国際関係の視点から米軍が基地に駐留すべきかどうかを考察した。日本の平和憲法やアメリカが日本に干渉すべきではないといったことについて言及されていた。

全体を通して、議論が活発でそれぞれが持っている知識や意見を率直にぶつけていたという印象を受けた。しかし、国際連合に代表される国際政治の動向や、中央アジア・ユーラシア大陸全土における米軍抑止力の果たす役割といった内容に関する意見は少なく、世界のパワーバランスを深く思考するまでは至らなかった。また、以上のような社会科学的な分析だけでなく、沖縄県民の目線に立つ視座や恒久平和思想といった人文科学的なアプローチを織り交ぜるような重層的なグループ討議が出来なかったことも課題である。

第2回 2010年5月28日（金）

テーマ：中国の経済発展と地域間格差

発表者：汪 洋（中国、社会科学研究所博士課程前期2年）

場所：中央図書館内ラーニングcommons会議室

参加者数：21名（教職員2名、留学生10名、日本人学生9名）

※所属—総合科学部、経済学部、生物生産学部、教育学部（HUSA含む）、法学部、教育学研究科、国際協力研究科、社会科学研究所、国際交流センター

※国籍—日本、中国、シンガポール、サウジアラビア、チェコ

概要：

2010年度2回目となる今回から、Face2FaceProjectは中央図書館ラーニングcommonsを会場とすることとなった。新施設の宣伝に繋がること、人目に付きやすく当日参加者も呼び込めること、インターネット等の設備が整っていることなど、利用するメリットは大

きい。また今回は、もみじによる宣伝も奏功し、新規参加者が 14 名を占めた。特に、学部 1, 2 年生の参加者は 7 名に上り、彼／彼女達の成長がプロジェクトを通じた教育効果を図る指標となることにも期待ができる。

今回、汪さんが発表した内容は、近年における中国の経済的な発展とは裏腹に国内に存在する地域間格差について考察したものであった。「1つの中国」に「4つの世界」があると言われ、政府は国内市場の統一や優遇政策、中央から地方への財源移転など様々な打開策を講じている。その一方で、豊かな沿岸部の企業の一部はインフラ整備が遅れた内陸部ではなく、アジアの低賃金国に生産拠点を移転し始めている。発表では、政府からの教育費の分配にも偏りがあり、経済的な優位がそのまま教育の格差を助長している現状についても触れた。

グループ討議ははじまる際、議論の方向性として「国家の経済的な発展と国民一人一人の幸福度の相関」について提示した。実際の討議では、各グループに中国人留学生が加わり、留学生から母国の現状を聞き出しながら、教育格差の是正、優遇政策が齎す影響、平等の意味、労働力移動とそれぞれのグループで活発な議論が展開された。グループ発表の際、ウイグル自治区出身の留学生と他の中国留学生が、大学入試における優遇政策について、国内の異民族との共存・共生のために、母語を優先するのか公用語を学習すべきなのか、意見を交わしたが、互いの立場を越えた地点に議論が収斂することは難しかった。

課題としては、新規参加者が増えたが、前回からのリピート参加が少なかったこと、パワー・バランスという大テーマに沿って中国の発展と格差について議論ができなかったことが挙げられる。また新規参加者の中にはグループ討議の中で発言回数が少なく議論に上手く参加できなかった人もおり、意欲のある参加者の意見や思考を引き出すファシリテーションを高めていくことも必要であることがわかった。プロジェクト自体の運営に協力してくれる学生を募ることに今後取り組むべきだろう。

アンケート結果【回答者数：17名（日本語 16名，英語 1名）】

1. 今回のプロジェクトについて、何で知りましたか？

知人・友人	7名
国際交流ボランティアのメーリングリスト	1名
もみじ	7名
その他	2名（中矢先生から）

2. 今回のプロジェクトに参加してどのように感じましたか？また今回で何回目ですか？

とても満足	7名
満足	10名
普通	0名
あまり楽しくない	0名
不満	0名

3. 今回のプレゼンテーションの内容について、どのように思いましたか？

とても興味深い	7名
興味深い	8名
普通	2名
特になし	0名

知っていた

0名

☆ 具体的にどの部分について、そのように思いましたか？（一部抜粋）

- ・学んだことのない内容であり、中国の現状を知ることができたのは良かったと思います。中国の格差であれ、発展途上国であれ、教育の格差を無くそうとすることが大事だと感じます。
- ・1つのもんだいについて、様々なとらえ方があること、また参加者がそれぞれの立場での考え方で、でも互いを尊重しながら議論が行われたので、もっと話を聞きたいと思った。
- ・みんなと一緒に話をして、自分の国の問題に明らかに分かってるようになりました。
- ・違う国内民族の人や違う国と自分の国について討議したりして、更に国のことをわかるようになりました。

4. 次回も参加したいですか？

参加したい 15名

参加したくない 0名

迷っている 2名

☆その理由は何故ですか？（一部抜粋）

- ・知識がなく議論に参加できなかったのが辛かった。ただ参考になったのでまた来たいという気持ちもある。
- ・ディベートするという機会を増やして、自分で意見を主張できるようにしたい。世界の問題などを深く知りたい。
- ・いろいろな人と交流しながら、自分もだんだん成長していく。
- ・その国の人の考え方がわかるから。日本人だけの討論より有熟している。
- ・実際に住んでいた留学生の方々から話を聞けるのは本を読んで勉強すること等の100倍以上の価値があるから。

第4回：2010年7月21日（水）

場所：中央図書館内ラーニングコモンズ会議室

発表者：齋藤 稔夫（日本、教育学研究科博士課程前期2年）

テーマ：サッカーW杯に見る移民の活躍とハイブリッドなナショナルチーム
－国民国家と移民－

参加者：16名（教職員3名、留学生9名、日本人学生4名）

※ 所属－総合科学部、経済学部、教育学部（HUSA）、教育学研究科

※ 国籍－日本、中国、ニュージーランド、シンガポール

概要：（教育学研究科 柳楽君による報告）

前回同様今回も中央図書館ラーニングコモンズにおいて Face2Face Project の4回目を実施した。前回は参加者のほとんどが知り合いであり、内輪での議論になってしまったが、今回は新しい中国の留学生が多数参加してくれたことにより、議論の場面においても活発な議論が展開された。今回は継続して参加している学生が多数いたことにより、議論の場面でも特に戸惑う場面はあまりなかった。

今回の発表では Face2Face Project を主催している齋藤さんが、今回の南アフリカ W 杯で見られたナショナルチームの問題がその国の国家的・民族的問題と関連していることを

指摘・考察した。まずドイツ代表の移民政策が変わったことを紹介し、国籍法が血統主義から出生地主義になったことで、トルコ系移民3世のメスト・エジル選手のような移民系の選手がドイツ代表としてプレーすることができるようになったことを説明した。また移民系の選手が代表チームに増えたことで、ネオナチから批判されたことも紹介してくれた。次にフランス代表チームの内部分裂問題に触れ、移民系の選手がフランス国歌を歌わないことに対する国民戦線党首ルペンの批判からフランス国民であることが一体どういうことなのかということを問いかけた。最後にサッカーがもたらす希望として、カメルーンのエトー選手が財団を設立したこと、サッカーにおける人種差別に反対する運動があることを紹介した。最後に述べられた「サッカーは人と人をつなぐスポーツ」という言葉が特に印象的であった。

グループ討議は各グループに指名したファシリテーターはいなかったものの、各班にいた日本人学生が議論をまとめてくれた。議論の方向性としては「国家と自分」「違う国で働くことと自分の国との関わり」であったが、各班の議論の結論はおおむね「自分自身が自分の国に愛着があるのかどうか」「国家アイデンティティとは何か」という方向でまとまった。結論の中ではスポーツにおいて他国であっても応援することと自分の国を応援することの違いや、シンガポールの卓球問題が挙げられたが、人が国をまたいで代表選手になったり応援したりすることが、なぜ起きるのか、またそれが何を意味するのかという問いにはまだ大いに議論する必要があるだろう。班をまたいだ議論においては、年配の方々とは若い人々との間で、また中国人と日本人の国家に対する感覚が大きく異なることがわかった。

課題としては日本人学生にもっと参加してもらうようにする必要があると感じた。日本人学生は参加者が固定化されてきているので、ぜひとも新しい参加者を加えてさらに活発な議論を行いたいと思う。Face2Face Project は全て英語で行われていると一部勘違いされていることも憂慮し、広く日本人学生に参加してもらえるような広報活動を行っていくべきであろう。

アンケート結果【回答者数：12名（日本語11名、英語1名）】

1. 今回のプロジェクトについて、何で知りましたか？

知人・友人	10名
もみじ	1名
その他	1名（中矢先生から）

2. 今回のプロジェクトに参加してどのように感じましたか？また今回で何回目ですか？

とても満足	8名
満足	3名
普通	0名
あまり楽しくない	0名
不満	0名

3. 今回のプレゼンテーションの内容について、どのように思いましたか？

とても興味深い	8名
興味深い	4名
普通	0名
特になし	0名

知っていた

0名

☆ 具体的にどの部分について、そのように思いましたか？（一部抜粋）

- ・育てられた環境が違うことによって、考え方も違っていると実感した。
- ・国家アイデンティティと地球人という話は一番印象的だと思います。
- ・最近の日本人はやっぱり国家ばなれしているのかな、愛国心がないのか、と実感した。でも確かに私も中国に留学したときは日本人であることをすごく実感したなと思いました。
- ・こういうやり方の授業は初めて受けました。
- ・国が近代化するにしたがって、国家アイデンティティがかえって強まってきていることに興味を覚えた。
- ・W杯における移民と実社会における移民問題を取り上げて、非常に面白いと思います。いろいろな人の意見を聞いたり、自分の意見を述べたりして、とても勉強になりました。

4. 次回も参加したいですか？

参加したい 12名

参加したくない 0名

迷っている 0名

☆ その理由は何故ですか？（一部抜粋）

- ・勉強になりました。いろいろ考えさせられました。
- ・本当に楽しかったです。各国から留学生の考え方がわかります。
- ・おもしろいです。知識も増えるし、みんなと意見交換ができる。
- ・中国、青島からお越しになった方々も参加していただき、深い話もできて、大変面白かったです。
- ・もっと議論をしたいです。もっと多くの人と話してみたいです。

第5回 2010年10月28日（木）16時～18時

場所：学生プラザ4F 多目的ルーム

発表者：ルシアーノ・フレイタス（ブラジル，国際協力研究科博士課程後期3年）

テーマ：グローバルに活躍する若手リーダー

参加者数：30名（教職員1名，留学生19名，日本人学生10名）

※所属—総合科学研究科，教育学研究科，国際協力研究科，社会科学研究科，総合科学部，教育学部，文学部，工学部，医学部，国際交流センター

※国籍—日本，中国，韓国，アメリカ，フランス，オーストラリア，カンボジア，フィリピン，マレーシア，インドネシア，ブラジル，

概要：

今回の発表では、「グローバルに活躍する若手リーダー」というテーマのもと、FACEBOOKなどのSNSで結ばれるオンラインネットワークについて概観し、発表者が経験した国際学生オンラインミーティングの感想を聞く中で、オンラインで形成されるネットワークの分類、オンラインネットワークが可能にした世界との繋がり、オンラインネットワークの長所と短所について議論した。

アンケート結果【回答者数：21名（日本語16名）】

1. 今回のプロジェクトについて、何で知りましたか？

知人・友人	8名
国際交流ボランティアのメーリングリスト	3名
もみじ	5名
その他	5名（齊藤・中矢先生から）

2. 今回のプロジェクトに参加してどのように感じましたか？また今回で何回目ですか？

とても満足	8名
満足	9名
普通	4名
あまり楽しくない	0名
不満	0名

3. 今回のプレゼンテーションの内容について、どのように思いましたか？

とても興味深い	5名
興味深い	13名
普通	3名
特になし	0名
知っていた	0名

☆ 具体的にどの部分について、そのように思いましたか？（一部抜粋）

<ul style="list-style-type: none">・（ネットワークについて議論した内容を）海外のいろんな人と共有できたことがよかった。・異国の文化に触れることができ、幅広い考えを持つことができた。もっと積極的に議論したかった。・SNSをどの程度どのように利用しその結果どのようなことを求め、得ているかということに関しては国を問わず同じだということが実感できた反面、何か違うことはないのかときになったから。・ The topic generates mainly the same discussion among the discussion groups. Lack of understanding of the language used by group presentations.
--

参加したくない	0名
迷っている	4名

☆その理由は何故ですか？（一部抜粋）

<ul style="list-style-type: none">・今回はあまり英語を理解できない部分があったが、次はもっと理解して皆でうまく議論出来たらと思う。・留学生と話ができるから。もっとディスカッションして異国の文化に触れたい。・ Because by talking with people all over the world, I can learn many things.・ Perhaps the topic discussed/presented will generate more interest and produced more opinions

第6回 2010年11月25日（木）16時～18時

テーマ：次世代クリーンエネルギー

発表者：Gurvan Maillard de La Morandais

ギュルヴァン・マヤール・ドゥ・ラ・モランデ（フランス，HUSA 留学生・教育学部所属）

場所：学生プラザ4F 多目的ルーム

参加者数：24名（教職員1名，留学生8名，日本人学生15名）

※所属—総合科学研究科，教育学研究科，社会科学研究科，生物圏科学研究科，総合科学部，教育学部，法学部，文学部，国際交流センター

※国籍—日本，中国，アメリカ，フランス，フィリピン，

概要：

今回の発表では，フランスのベンチャー企業が製造した小型水力発電機についてギェルバンさんに発表してもらった。また今回は少し工夫を凝らし，予め用意しておいた3つのトピック「クリーンエネルギー・資源獲得競争・ベンチャー企業」について，参加者が興味のあるトピック毎にグループに分かれ，グループ討議を行った。トピックについては，発表前に学生スタッフとギェルバンさんが打ち合わせを重ね，本人の了承を得た上で，それぞれのトピックについて統計や先行研究資料をまとめ，一部ずつ用意しておいた。

発表では，日本企業に対する BtoB ビジネスとして小型水力発電機を導入したいというギェルバンさんの計画についても聞くことが出来た。参加者はビジネスに携わる同世代の肌感覚に触れることで，発表後の質疑応答もこれまでになく活発であった。また前述した事前準備が奏功し，これまでの F2F プロジェクトで課題であった発表からグループ討議への移行が非常にスムーズに行うことが出来た。

グループ討議および発表では，①クリーンエネルギーのグループは英語で，②資源獲得競争および③ベンチャー企業のグループは日本語で，それぞれ行った。①では，クリーンエネルギーの種類やコスト，その必要性や是非について議論が飛び交った。留学経験のある日本人学生達が討議の方向性を誘導した。②では，資源保有国が途上国に多い現状を踏まえ，先進国の経済的倫理観や人的資源の育成および確保についても議論が発展した。またレアメタルに関する具体的な事例を持ち出し，日本の危機感の薄さについても言及した。③では，ベンチャー企業および起業家に関して，動機やリスク，社会的評価などについて意見を出し合った。今回，ギェルバンさんの友人で学生起業家の方も見学に来ていたため，彼の現実的な専門知識によって，議論の内容が更に深まった面もあった。

全体を通じて，今回の F2F プロジェクトでは，1) グループ討議への事前準備の必要性，2) グループ討議の技法，3) 議論の広がりや専門知識のバランスの3点が改善されたとともに，今後の継続的な課題としても表面化した感がある。1)，2) は，学生スタッフ間で連携を密にし，「何かまとまった答えを出すこと」ではなく「参加者の思考の広がりをマップ化し，深めていくこと」が目的であることを共通認識として持つ必要がある。3) については，専門知識を持った参加者が議論のスパイスになることが分かった。

アンケート結果【回答者数：13名（日本語10名）】

1. 今回のプロジェクトについて，何で知りましたか？

知人・友人	8名
国際交流ボランティアのメーリングリスト	1名
もみじ	4名
その他	0名

2. 今回のプロジェクトに参加してどのように感じましたか？また今回で何回目ですか？

とても満足	5名
満足	7名

普通	1名
あまり楽しくない	0名
不満	0名

3. 今回のプレゼンテーションの内容について、どのように思いましたか？

とても興味深い	4名
興味深い	8名
普通	1名
特になし	0名
知っていた	0名

☆ 具体的にどの部分について、そのように思いましたか？（一部抜粋）

- ・ It's the real communication with the world.
- ・ 環境教育, ESD, 地域性にもともと興味があったので。
- ・ 日本人の学生と組み合わせてディスカッションするのがいいと思う。
- ・ 学生同士のディスカッションが意外に盛り上がったので刺激的だった。実勢に働いているフランス人から話が聞ける貴重な機会だった。
- ・ いろんな話や意見を聞かせて、視野を広げていくと思う。

4. 次回も参加したいですか？

参加したい	11名
参加したくない	0名
迷っている	2名

☆ その理由は何故ですか？（一部抜粋）

- ・ 実は講義と時間が被っていて・・・
- ・ ディスカッションがテーマで分かれていてよかったです。
- ・ とても有意義な時間でした。たくさんの意見を聞くことができ、楽しかったです。
- ・ 今回で3回目ですが、前回までの2回とディスカッションの方法が少し違っていたように感じ、非常に勉強になりました！すごく楽しかったです。

第7回 2010年12月21日（火）16時～18時

テーマ：留学生が日本で就職する動機～自身のインターンシップ経験をもとに～

発表者：陳曦（中国, HUSA 留学生・教育学部所属）

題目：「東京都港区役所国際推進担当 インターンシップ体験」

場所：学生プラザ 1F

参加者数：17名（教職員3名, 留学生6名, 日本人学生8名）

※所属一工学研究科, 教育学研究科, 生物圏科学研究科, 総合科学部, 教育学部, 文学部, 国際交流センター

※国籍一日本, 中国, アメリカ, バングラデシュ, フィンランド

概要：

今回の FacetoFaceProject では、発表者自身が経験した日本でのインターンシップを踏まえ、その動機と苦労した点、また将来日本とどのように関わり働いていきたいかについて

て発表してもらった。今後、日本の移民政策において留学生が日本企業へ就職することは重要なトピックとなることから、上記のようなテーマに設定した。もちろん、日本企業と留学生の関係から連想し、海外で働く日本人の実情や自国で外国人が働くことに関する認識などについて参加者が議論してくれることも狙いとしてあった。

また今回も、事前の資料準備を入念に行ったが、内容が専門的過ぎたり、精読する時間的な余裕がなかったりしたため、資料が議論を深める材料となったかは定かではない。資料の準備については、次回以降、更なる工夫が必要である。

さて、グループ討議は日本語と英語の2つのグループに分かれて行われた。日本語グループでは日本でインターンシップ・就職しようとする留学生の心情や異文化適応力、さらには言語や文化的背景に起因する外国人差別の問題について意見が交わされた。また英語グループでは留学受入国で働くメリットとデメリット、留学経験を自国で活かす方法などについて議論が展開した。それぞれのグループに留学生が加わっていたことで、日本人学生も留学生も双方の考えや社会的背景を聞き出すことが出来、テーマに対して多角的にアプローチ出来たと思われる。さらに、日本語と英語を織り交ぜた討議を受け、後で「英語を勉強しなきゃ」と溢す学生もいた。結論を出すのではなく多様なものの見方を学ぶ場が **FacetoFaceProject** であることを考えると、議論が思わぬ動機づけになることもあるのだろうか。

前回に比べ、参加人数が少なかったことは課題である。発表内容、宣伝方法、開催曜日、プログラム、天候などによって人数が左右されることなく、常に20人前後の学生が参加出来る状況を創りだしていきたい。また全プログラム終了後の会話の中に、議論の中では表出しなかった気づきやネットワークづくりの基盤となる出逢いがあることが明らかになってきた。このように、**FacetoFace** には思いもかけない発見がある。**FacetoFace** は広く深い議論ができる場であることを多くの学生に認識してもらいたい。

アンケート結果【回答者数：9名（日本語9名）】

1. 今回のプロジェクトについて、何で知りましたか？

知人・友人	4名
国際交流ボランティアのメーリングリスト	1名
もみじ	4名
その他	0名

2. 今回のプロジェクトに参加してどのように感じましたか？また今回で何回目ですか？

とても満足	3名
満足	4名
普通	2名
あまり楽しくない	0名
不満	0名

3. 今回のプレゼンテーションの内容について、どのように思いましたか？

とても興味深い	3名
興味深い	4名
普通	2名
特になし	0名

知っていた

0名

☆ 具体的にどの部分について、そのように思いましたか？（一部抜粋）

- ・ 仕事経験を有することが、発表者と共通しており、興味深かった。
- ・ **I learnt very important point regarding foreign student job hunting in Japan.**
- ・ 議論の内容を（時間的に）あまり深くまで話し合えなかったが、単純に話しあえたことがいい経験になった。
- ・ 留学生の留学目的が少し日本人と違うような点が聞けたこと。（日本人：語学向上・興味、留学生・就職目的 etc）

4. 次回も参加したいですか？

参加したい 7名

参加したくない 1名

迷っている 1名

☆ その理由は何故ですか？（一部抜粋）

- ・ very busy
- ・ ディスカッションする場があまりないから。
- ・ **To learn more Japanese and meet people**
- ・ 留学生と一緒に勉強したいからです。
- ・ **FacetoFace** で日本人と交流できる機会がいいと思います。

第8回 2011年1月21日（金）16時～18時

テーマ：Cross-Cultural Communication

発表者：

・ 本田秀一（日本，文学部1年）

「International Cafe～学生主体の国際交流活動の意義～」

・ スザンネ・ロバート（オーストリア，HUSA 留学生・教育学部所属）

「Ich studiere japanology～わたしが日本語を学び始めたきっかけ～」

場所：学生会館2F レセプションホール

参加者数：16名（教職員1名，留学生8名，日本人学生7名）

※所属—先端物質科学研究科，教育学研究科，国際協力研究科，総合科学部，教育学部，文学部

※国籍—日本，中国，パキスタン，フィンランド，オーストリア，ロシア，パプアニューギニア

概要：

今回の FacetoFaceProject では、内容が類似していたため、二人の学生に発表をお願いした。本田君は、学部1年生ながら International Café という学生による国際交流会の企画運営を行っており、その趣旨と活動内容、そして今後の課題について報告した。スザンネさんは、グラーツ大学から昨年10月より1年間、広島大学に在籍する HUSA 留学生で、日本語や日本文化に興味を持った経緯および勉強を通じて学んだ日本の特徴について発表した。また今回より、司会は総合科学部2年の村上さんが務めることになった。緊張しながらも発表に対する意見を述べたり、グループ討議を活発にするための問い掛けを発したりする等、場が盛り上がる進行を心掛けていた。

グループ討議では、英語が1、日本語が3の計4つのグループに分かれた。発表内容が身近な話題であったため、参加者に対してテーマを提示することはなく、グループ内で自由に討論してもらった。英語グループでは留学生から日本人と仲良くなれなかった経験譚から日本人の閉鎖性に対する不満の声が聞かれた。また、異質なものに対する拒絶反応は日本に限った事なのかという日本人学生からの切り返しもあり議論は大いに盛り上がった。日本語グループでは、日本と中国の留学生が双方に対して抱く正負のイメージを出し合い、互いの見方や感じ方の差異を描出した。他にも、平和教育に関連させて異文化理解を促進していくために必要なことや日常生活において外国人と共生することの難しさなど、様々な意見が飛び交った。

今回は、総じて参加者の積極的な姿勢が目立った。特に二人の発表後に行った質疑応答の時間では、発表者だけでなくフロアの日本人や留学生の双方に対して、質問や意見が出された。予期せぬ状況だったが、このような率直な討議は、参加者間のわだかまりや懐疑心を払拭することは出来たのではないかと思う。次回で今年度は最後になるが、全体討論会のようなかたちで参加者の「心の声」が発信される場を創出してみたい。

アンケート結果【回答者数：15名（日本語9名）】

1. 今回のプロジェクトについて、何で知りましたか？

知人・友人	9名
国際交流ボランティアのメーリングリスト	2名
もみじ	4名
その他	0名

2. 今回のプロジェクトに参加してどのように感じましたか？また今回で何回目ですか？

とても満足	4名
満足	11名
普通	0名
あまり楽しくない	0名
不満	0名

3. 今回のプレゼンテーションの内容について、どのように思いましたか？

とても興味深い	5名
興味深い	9名
普通	0名
特になし	0名
知っていた	1名

☆ 具体的にどの部分について、そのように思いましたか？（一部抜粋）

- ・ International Café のことを詳しく知ったのは初めてだったから、是非参加してみたいと思った。またポップカルチャーがきっかけというのを留学生本人から聞いて改めてその事実を確認できたから。
- ・ Obviously, both presentations were based on personal experiences. Therefore, it was a nice opportunity to know, how Japanese friends think about international society. Undoubtedly, there are many cultural differences but it was good interactive to know each other.
- ・ 海外と日本の双方向で、お互いのイメージを分かち合い、楽しく交流できた。

4. 次回も参加したいですか？

参加したい	14名
参加したくない	0名
迷っている	1名

☆その理由は何故ですか？（一部抜粋）

- ・自分の考えを述べられるのが面白い。なかなかこういった議論の場がないので、貴重だと思います。
- ・ It was a good experience to show personal thoughts about cultural diversity.
- ・ It's great chance to meet people from 広大, who are interested in international cooperation.
- ・ I think it's interesting and it's a good chance to learn about other countries' culture and way of thinking and also to learn more about Japanese culture.

第9回 2011年2月9日（水）16時～18時

テーマ：本年の総括

発表者：齊藤稔夫（教育学研究科博士課程前期2年）

題目：グローバルリテラシー～他者との対話に向けて～

場所：学士会館2F レセプションホール

参加者数：16名（教職員1名，留学生2名，日本人学生10名）

※所属—教育学研究科，総合科学部，教育学部，文学部，生物生産学部

※国籍—日本，中国，フランス

概要：

2010年度最後の開催となる今回は、運営者の一人である齊藤が『グローバルリテラシー～他者との対話に向けて～』というテーマで発表を行った。まず、これまで8回に渡るFacetoFaceProjectにおいて議論してきたテーマを概観し、そもそも本企画を行う目的とは何かについて話した。次に、中矢先生が作成したグローバルリテラシーの定義について理解を深めるため、グローバルリテラシーを構成する7つの要素を、具体的な事例を示しながら、説明した。最後に、他者を受容し、新しい関係性を築くまでの過程に、葛藤と新しい価値観の構築があること、そのためには会話（communication）ではなく対話（dialogue）が必要であることを説明し発表を終えた。

今回はグループ討議を行わず、発表後の質疑応答からそのまま全体討議へと移行した。討議の中では、異文化に対する個々人の価値観やそれを形成する契機となった経験、所属する国家の一国民としてその歴史を担う責任と負荷、平和構築・構造的暴力に抵抗する具体的な行為や思想といった幅広い意見が交わされた。特に討議が活発になったのは、日本の植民地政策がアジア諸国の人々に与えた影響に関する歴史認識を持つことが必要であるという意見に対して、歴史を担うことは重荷に感じる、それより目の前の他者と関係を構築していくことが大事といった反論が出た時である。国際感覚の涵養には歴史を知ることが不可欠であるが、このような意見の対立が生まれたのは、異文化や異質な他者と出逢った時に起こる内面的な葛藤を参加者の多くが未経験であることが要因であったのかもしれない。全体討議の後、中矢先生が「しがらみのない学生だからこそ出来る、多種多様な意見や価値観をぶつけ、互いを理解するために議論する FacetoFace をこれからも楽しんで

ください」とまとめ、終了した。その後開催された打ち上げには 10 名が参加し、FacetoFace 以上に活発な議論が展開された。

来年度以降は、中矢先生のサポートの元、学部生を中心に運営が行われることになるだろう。しかし、一年間の地道な活動が奏功し、FacetoFace の認知度は増し、参加したいという学生の声は多い。社会の不条理に対する率直な怒りや問題意識を学部生が積極的に表明し、議論の深みと視座の広がりや大学院生や教職員が補完するような取り組みになれば、FacetoFace はますます発展していくことだろう。

アンケート結果【回答者数：7名（日本語7名）】

1. 今回のプロジェクトについて、何で知りましたか？

知人・友人	3名
国際交流ボランティアのメーリングリスト	1名
もみじ	3名
その他	0名

2. 今回のプロジェクトに参加してどのように感じましたか？また今回で何回目ですか？

とても満足	4名
満足	1名
普通	2名
あまり楽しくない	0名
不満	0名

3. 今回のプレゼンテーションの内容について、どのように思いましたか？

とても興味深い	1名
興味深い	4名
普通	2名
特になし	0名
知っていた	0名

☆ 具体的にどの部分について、そのように思いましたか？（一部抜粋）

- ・グローバルリテラシーにすごく難しいイメージを持っていましたが、大事なことは少しだけで、それを深めていくことが大事だと分かったから。
- ・グローバルリテラシーについては未だに良く理解できてませんが、いろいろな物事や経験から生まれる意見の違いが勉強になりました。勉強をたくさんしたいなと思いました。
- ・国際的な話をいっぱいして視野が広まると思います。みんな心を開いて、自分の国籍を忘れて、普通の人間として、真実の気持ちや考え方を聞いてくれて、嬉しいと思います。

4. 次回も参加したいですか？

参加したい	14名
参加したくない	0名
迷っている	1名

☆その理由は何故ですか？（一部抜粋）

- ・自分の考えを述べられるのが面白い。なかなかこういった議論の場がないので、貴重だと思います。
- ・It was a good experience to show personal thoughts about cultural diversity.
- ・It's great chance to meet people from 広大, who are interested in international cooperation.
- ・I think it's interesting and it's a good chance to learn about other countries' culture and way of thinking and also to learn more about Japanese culture.

Ⅲ. 課題と今後の対応

1. テーマの深まりについて

大学院生による発表で、非常に専門的な場合は、内容も深く非常に勉強になる。その一方で、聴きなれない専門用語や英語が多用される場合には、グループ討議の際に発言を躊躇したり、会話についていけない学生も出てくる。

自分の体験談に基づく発表である場合は、会話も弾み、楽しめるが、大学生レベルでのグローバルリテラシーの向上を考えた際には、内容の質に問題がある。

この問題に対して、本年度は専門性が学部生にとって高すぎる場合には、事前に関連する資料を事前に配布し、討論中も見ながら話ができるようにした。また、自分の経験知に偏った話の展開が予想される場合には、グローバルな視野から話ができるような資料を準備して配布した。しかし、事前に資料を読む参加者は少なく、実際に討論が始まると資料を読んでいる暇はないといった状況が見られた。来年度は、さらに分かりやすい資料を事前に配布して準備を促していく。

2. グループ討議の深まりについて

テーマが参加者にとって考えた事のないような話題である場合に、ディベートするほどの強い意志を形成できていない。また、KJ法による討議方法をとった場合も、話題が拡散しすぎてしまい、収集がつかなくなったり、深まっていけない場合があった。そのような状況に陥らないようにするために、中矢と齊藤が適宜ファシリテーターとして参加したが、参加者人数が多い場合には、すべてのテーブルを網羅的に支援することは困難であった。年度途中にファシリテーター役を何人かの学生に依頼したが、経験を積まないとなかなかその役割を果たせない。

来年度は、意欲の高い学生に対して個別にファシリテーターの説明を行い、意識的に d ファシリテーター力を向上してもらい、グループ討議を深めるようにする。

3. 言語の壁について

留学生の中には、英語しか話せない学生がいるため、プレゼンテーションは英語で行うか、日本語の場合はパワーポイントを日英表示にしたり、資料を英訳して配布したりする対応をとった。しかし、質疑応答では適宜通訳が必要となり、通訳者が足りないという問題があった。グループ討議では、日本人学生は英語を積極的に使って自分の意見を表明する学生が少なく、言語能力がダイレクトにグループ討議の深まりに影響を与えていた。

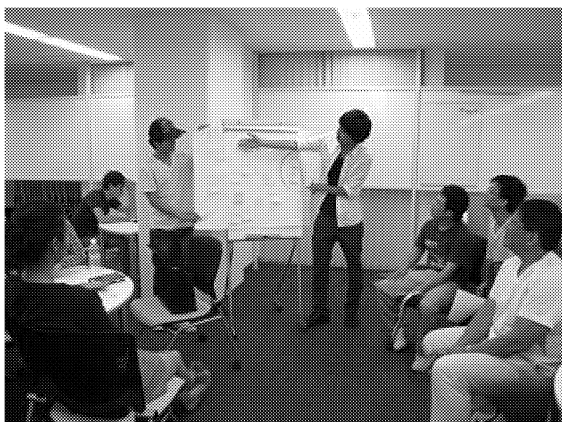
今後は、英語での進行とグループ討議を推奨し、英語話者留学生も参加しやすいようにする。

4. 時間の短さについて

発表、質疑応答、グループ討議、全体発表を1時間半で行うのは、非常に時間が短く、毎回話し足りなかったという学生が多い。この問題については、設定時間を延長することで解決するのではなく、司会進行を手際よく行うことと、会の終了後に個人内での対話を続け、さらに Face to Face のブログや個人間ネットワークでの議論に結びつけてもらうことで解消したい。

5. 今後の Face to Face のあり方について

そもそも Face to Face は、留学生センター指導部門教員によって留学生と日本人学生の国際交流の場として開始されたものである。2010 年度に国際センターに改組され、指導部門という組織枠組みは消失した。しかし、国際教育部門という枠組みになったからといって、留学生や日本人学生の Face to Face という場へのニーズがなくなったわけではない。既存の部局提供の講義では経験することのできない、専門分野を限定しないグローバルな課題について多様な国籍の学生が知的な議論を行う場は貴重である。これを国際センターの定期的な教育活動とするか、講義形式にするべきかは今後さらに検討が必要であろう。



広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム活動報告

堀田泰司・恒松直美

沿革

1993年に日米文化教育交流会議(The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange：通称カルコン CULCON)が開催され日米間の学生交流の促進が謳われ、政府支援の下、1995 - 96年に8国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学プログラム（Hiroshima University Study Abroad Program, 以下HUSAプログラム）は、その8国立大学の1つとして、1996年に開始され、これまで積極的に学生交流を促進してきた。よって、当初の本学の短期交換留学プログラムの目的は、米国の高等教育機関との交流を中心とするものであった。しかし、プログラムは徐々に拡大し、現在は、世界中に点在する協定大学67校と交流を行っており、交換留学生受入れ・派遣留学を通して学生に異文化を体験させるだけでなく、留学しない本学のキャンパスで学習する学生に対しても異文化交流の機会を提供し、より多くの学生に国際教育の場を提供している。

教育内容としては、世界中の留学生が本学で学べるように英語による特別科目を開講し、より質の高い教育を提供するよう努力している。近年では、留学生に対し充実したインターンシップ科目を開講し、日本企業での実践的な経験を持つ機会も提供している。また、海外へ留学を希望する本学の在籍学生に対しては、説明会、留学フェア、文化交流会等の開催に加え、本学が積極的に参加している大学間コンソーシアムのINU(International Network of Universities)を活用し、アメリカとオーストラリアの教授によるオンライン・ビデオ講義を駆使した国際教養科目を開講し、本学の派遣留学予備軍の養成を目指している。

さらに、2000年より、コンソーシアム型学生交流の促進を目指しUMAP (University Mobility in Asia and Pacific)事業に参加し、留学した学生の単位互換をより公平、且つ正確に行おうとUMAPが開発したUCTS (UMAP単位互換方式、UMAP Credit Transfer Scheme)を採用し、全協定大学に対する本学の教育プログラムの透明性と互換性を高めている。現在は、UMAPが新たに開発したUSCO (UMAP Student Connection Online)事業にも積極的に参加し、アジア・太平洋諸国の学生交流促進に貢献している。

運営組織としては、HUSAプログラム開始当初から全学組織である短期留学交流実施部会が全体を統括し、交換留学生の選考、協定大学との調整・交渉、英語による国際教育プログラムの拡充等について検討している。部会は各部局代表委員並びにその他委員により構成されている。また、プログラムを直接、管理運営する組織としては、国際センターの

国際教育部門の教員 2 名及び留学交流担当の職員がその主たる業務を担っている。

I. 受け入れプログラムの概要

- ・ 受け入れ期間：一学期または一学年
- ・ 募集人員：40 名
- ・ 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- ・ 応募資格：
 - (1) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
 - (2) 原則として自国の大学の正規課程 3 年次の学部学生（協定校によっては、大学院生も含む）
 - (3) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
 - (4) 非英語圏から応募する学生にあつては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者
- ・ 選考方法：短期留学交流プログラム部会において、協定大学の推薦と UMAP 学習計画書を参考にし、書類を選考する。
- ・ 学生の身分と受け入れ方法：学生は、国際センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」又は「特別聴講学生」（広島大学学生交流規定）として受け入れる。
- ・ 授業料等の不徴収：交流協定に基づき、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない（なお授業料については、協定において「相互不徴収」について合意する必要がある）。
- ・ カリキュラム：授業科目は、3つの形態から構成されている。「特設科目」(Special Course)は、HUSA プログラムの留学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」(Integrated Course)は、既に学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語を交えて授業にするとという条件のついた授業であり、日本人学生と共に履修するものである。第3に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、国際センターが実施している日本語・日本事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で正規学生用に開設されている授業を受講することができる。授業科目は各学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2010-2011 年度に開設された授業科目一覧表である。

2010-2011 度 (2010 年 10 月～2011 年 7 月) 授業科目一覧

[2010 度秋学期]

1. 特設科目 【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Family Life in Japan	2 単位	教育学部
HUSA Internship I : Career Theory and Practice	2 単位	教育学部
HUSA Internship II : Practicum	2 単位	教育学部
Introduction to Applied Molecular and Cellular Biology	2 単位	生物生産学部
Introduction to Radiation in the Environment	2 単位	工学部
Japanese Art and Global Education	2 単位	教育学部
Japanese Society and Gender Issues	2 単位	教育学部
Japanese Society and Lifestyles B	2 単位	総合科学部
Special Subject III(Japanese Economy)	2 単位	経済学部
The Japanese Culture and Education	2 単位	教育学部
Theory and Practice of Somaesthetics	2 単位	教育学部

2. 常設科目 【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
Introduction to Phonetics and Phonology (音声学・音韻論入門)	2 単位	総合科学部
Introduction to the Theory of Inter-Cultural Communication (異文化コミュニケーション論入門)	2 単位	総合科学部
Oral and Dental Science: Dietary Life and General Health (口腔の科学: 食生活と全身の健康)	2 単位	総合科学部
Seminar in English Debate (英語ディベート演習)	2 単位	総合科学部
What is Peace? (平和とは何か)	2 単位	総合科学部

[2011 度春学期]

1. 特設科目 【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Special Subject V: Development Macroeconomics	2 単位	経済学部
Japanese Society and Lifestyles A	2 単位	総合科学部
Peace and Human Rights	2 単位	教育学部

Frontiers of Material Science	2 単位	総合科学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Recent Developments in Biological Sciences	2 単位	理学部
Development and International Education	2 単位	教育学部
Introduction to Plant Production Science	2 単位	生物生産学部
Legal System and Japanese Society	2 単位	法学部
Communicating Physical Science and Technology	2 単位	工学部
Cross-Cultural Studies on Education	2 単位	教育学部
HUSA Internship II :Practicum	2 単位	教育学部

2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
CMOS 論理回路設計	2 単位	工学部
INU 特別協力講義 B: 「アメリカの文化と社会」	2 単位	総合科学部
英文法	2 単位	文学部
現代国際法演習	2 単位	総合科学部
言語の比較と対照研究	2 単位	教育学部
言語学入門	2 単位	総合科学部
細胞生物学	2 単位	医学部
社会医学・国際協力論・医学統計学	2 単位	医学部
心理言語学	2 単位	総合科学部
水循環論	2 単位	総合科学部
日本の政治と対外関係	2 単位	法学部
平和とは何か	2 単位	総合科学部

日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語初級 IA	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IB	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IC	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 ID	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター

日本語初級 IIB	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級 IIC	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IA	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IB	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IC	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIA	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIB	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIC	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語聴解特別演習 A	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語表現特別演習 A	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語古文特別演習 A	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (リスニング)	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (映画)	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (古典)	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (語彙)	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (表現)	2単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (分析)	2単位	秋・春学期	国際センター
日本社会と文化 A	2単位	秋・春学期	国際センター
日本社会と文化 B	2単位	秋・春学期	国際センター
日本の思想と哲学 A	2単位	秋・春学期	国際センター
日本の思想と哲学 B	2単位	秋・春学期	国際センター
日本の地域・文化 A	2単位	秋・春学期	国際センター
日本の地域・文化 B	2単位	秋・春学期	国際センター
日本の映像文化史 A	2単位	秋・春学期	国際センター

・受け入れ体制の整備：(1) 日本における様々な体験学習の場を提供する。(2) 学生宿舎(日本人・留学生混在型)を用意するとともに、ホームステイ受け入れ家庭との交流も促進する。(3) 日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(4) 日本語学習の補助として日本人学生の会話パートナーを紹介する。(5) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼せず、機関保障(広島大学)とする。(6) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の単位互換方式である UCTS を導入し、単位互換を促進する。

II. 2010-2011 年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2010-2011 年度は、36 名の留学生を受け入れた（2009 年度 30 名）。期間は、殆どの学生が 1 年間の滞在を希望しており、男女別で見ると 2010-2011 年度 HUSA プログラムに参加した学生数は、男子学生 12 名、女子学生 24 名であった。

III. 2010-2011 年度 HUSA プログラム受け入れに関する業務及び活動内容

申請と選考：2010 年度募集要項は、2010 年 1 月に各協定大学へ配布され、3 月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4 月に本学の選考委員会によって HUSA 参加者が正式決定された。今年度も、受け入れ留学生の申請において、UMAP 学習計画書を申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料とした。2004 年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録システムを導入し、2010 年度も継続してオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデータベースが作成できるようになった。システムも毎年整備し、より効率的な形でオンライン登録が可能となっている。HUSA 受け入れ留学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデータベース作成及び管理にオンライン登録を活用していきたい。

渡日前の情報の提供：渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島大学及び留学生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き (Information for New Students)」を改訂して各学生に送付した。また、ホームページで HUSA プログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よくある質問」を掲載し留学生がよく疑問に思う事項について説明した。さらに、2003 年度 HUSA プログラムより開講しているインターンシップ・コースについての情報も掲載した。それらに加え、学生の個人的な質問等には、電子メールやファックスを活用し、直接個々のケースに対応した。

チューターオリエンテーション：日本人学生チューターに対し、今年度も事前に 2 回の説明会を行った。第 1 回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第 2 回目は、留学生が来日する直前に、渡日後 1 週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

見学・体験学習：2010 年度秋学期は例年のように 10 月に呉市吉浦秋大祭見学及び西条

酒祭り見学を行い文化体験学習の機会を提供した。

授業科目の開設状況：短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度も、特設科目・常設科目・日本語が短期交換留学生のために開講された。日本語教育科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となっている。2003年度から初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生及び研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

2003年度より春学期にインターンシップ・コースを開設し、毎年インターンとして地域企業に2週間派遣している。2005年度よりインターンシップ派遣前に事前研修を開始し、インターンシップの準備体制を充実させてきた。研修の充実化を図り、短期交換留学生のキャリア教育及び日本社会とグローバル社会との連携の発展を目指している。2010年度前期より企業体験者を招聘して全学公開セミナーを開き、留学生が本学学生と共に国際的視野から将来を考える場を創出した。また、2010年度後期からは企業体験者講話に基づいたPBL（課題発見解決型学習法）による留学生と本学学生の協同学習も導入し、学生がより自主的に学びを高め合い大学教育とグローバル社会をつなげられる場を作った。インターンシップ開始前には、広島経済同友会広島中央支部国際委員会及び受け入れ企業との会議及び懇親会に担当教員及びインターンの学生が出席し、親交を深めた。地域との連携の中で大学の国際化を促進し、留学生のキャリア教育及び日本での就業体験をさらに充実させ、ホリスティックに短期交換留学生の教育を充実化させていくことを目指した。

文化交流支援活動：

- 9月に来日した際に行うHUSAプログラム・オリエンテーションは2006年度より2日間に亘って行っており、本学で勉学するにあたっての心構えや事務手続きなど全般に渡る指導を行っている。異文化適応についての指導や、HUSAプログラム参加留学生間の交流及び広島大学学生との交流並びに先輩からのアドバイスも盛り込み、学生間の交流を促進し、本学での生活に早く慣れるよう企画した。
- 国際センターで運営する国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期留学生に紹介する会合を開き、交流を促進した。また、日本人チューターを、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生をチューターとして採用した。

地域貢献：2003年度より、東広島商工会議所より、国際理解のための留学生の母国についての講話を依頼されている。2003年度はフランス・韓国、2004年度はアメリカ・カナダ・

ギリシャ、2005 年度にはドイツ、2006 年度にはタイからの HUSA 留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話した。また、HUSA 留学生が、地域の小学校・中学校・高校を訪れ、国際交流を行った。

HUSA 広報活動： HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、インターンシップと産学連携、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流行事案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、留学に関わる情報が網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。

HUSA プログラム評価： プログラム改善の参考とするため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価、学生チューター評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布し、回収し、結果をまとめ、プログラム改善に役立てている。

IV. 2010-2011 年度 HUSA プログラム派遣留学に関する活動

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も 2010 年 1 月初旬に応募者の選考試験を行い、中旬には短期留学交流プログラム部会で選考を行い、2-3 月には、協定大学への申請手続きを行い、派遣は、5 月から 10 月、そしてオセアニアへは、2011 年の 1-2 月に実施した。以下は、派遣学生の募集と選考に関しての概要である。

1. 制度の趣旨：

広島大学短期交換留学(派遣)プログラムは、本学の学部生・大学院生が在籍しつつ、学生交流協定に基づいて、海外の協定大学へ 1 学期または概ね 1 年間留学し、専門教育または外国語教育等を受け単位を取得し、本学で単位互換することにより、海外に留学しても通常の修学年限内に卒業できることを目指した制度である。本プログラムは、1996 年後期から開始され、現在アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、シンガポール、中国、韓国、ロシア、ポーランド、オーストリア、ドイツ、フランス、オランダ、スウェーデン、イギリス等の 67 大学からの交換学生を受入れ、同時にそれらの大学へ、本学に在籍する学生を派遣している。

2. 特徴：

- ・ **授業料不徴収：** 本プログラムで留学する学生は全員、協定大学では、授業料を支払う必要がない。
- ・ **単位互換制度：** 全協定大学の単位制度に対し、UMAPのUCTSを活用することに

より、公平、且つ正確な単位互換を行っている。また、UMAP授業計画書を実施することにより、派遣学生、指導教員、そして協定大学が、学生の履修計画並びに単位互換に関して、事前に検討し、相互に承諾を得ることができ、交換留学の実質的な活動を円滑に進めることができる。

- ・ **現地コーディネーターのアシスタント**：協定大学の国際室並びに関係部局には、本学との交流事業をコーディネートする事務職員がいるので、連携し、派遣学生の留学生生活を支援している。
- ・ **短期交換留学生との留学前の交流及び留学後の現地での交流**：留学前に留学先から本学に留学している学生と交流会を持つことにより、現地での生活の状況、授業参加やクラブ活動等の学生生活に関するアップデートな情報等を得ることができる。また、留学後は、その留学生が帰国するので、現地での最初の交友関係を作ることができる。

3. 出願書類

①派遣申請書

②留学計画書

③外国語検定試験の成績表

(英語、中国語、ドイツ語、フランス語の検定試験については、それぞれの検定試験に一定の基準を設け評価している)

④学業成績証明書

4. 出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係へ例年 11 月末までに提出する。

5. 面接（口述）試験

学生から提出された申請書類の留学計画を基に例年 1 月の第 1 週に面接試験を行っている。試験は、広島大学短期留学交流プログラム部会の委員による 1 グループ 3 名程度の審査員によって実施され、審査員が学生の留学計画、異文化適応能力等についてそれぞれ 5 段階評価をつけ、その平均点が最終審査会の 1 つの評価指標として使用される。

6. 選考委員会の実施

例年 1 月下旬に、広島大学短期留学交流プログラム部会において、派遣留学生の選考を実施している。主に学生の留学志望校、語学能力、面接試験結果、学業成績を考慮し、可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮しながら選考及び推薦を行っている。

V. 2010-2011 年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

2010 年度の短期交換留学生派遣に関しては、33 名を推薦し、アメリカ、カナダ、イギ

リス、オーストラリア、中国、韓国、タイ、ドイツ、フランス、オランダの 18 大学へ派遣した。1 カ国に複数の協定校がある国ごとの傾向を見た場合、アメリカは 3 大学 5 名の派遣で一番多く、そして中国は、夏季集中講義の 4 名を入れると 2 大学で合計 5 名、韓国も同様の場合は 2 大学で 5 名、続いてイギリスが 2 大学 3 名、そして、オーストラリアは 2 大学へ 2 名派遣した。また、過去 5 年間の派遣留学生数の推移では、27 人（06 年度）、16 人（07 年度）、19 人（08 年度）、24 人（09 年度）と 2007 年に一旦減少した後、増加してきている。しかし、全協定大学との交流バランスを見ると、毎年、受入れ超過傾向にあり、今後も派遣留学の促進に努力する必要がある。

VI. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

広報活動：22 年度は、6 月に留学フェアを開催した。そして、2 回の説明会を実施し、合計 85 名の参加者があった。また、派遣留学のための協定大学の紹介や留学までの段階的な留学準備の仕方について事務局と連携を取り HUSA ガイドブックを再編し、派遣学生へ配布すると同時に HUSA ホームページでも閲覧できるようにしている。

留学前の情報提供と留学計画の促進：例年、派遣が決定した本学の学生に対し 2 度に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教員及び学部との単位互換について確認する目的で、UMAP 学習計画書を 6 月の第 1 回目のオリエンテーションで配布し、留学前までに、提出するよう要求している。

INU 特別協力講義：派遣留学を促進するためにすでに 2006 年より開講してきた INU 特別協力講義並びに集中講義を今年度もいくつか実施した。INU 特別協力講義は、一般の教養科目として開講されているが、INU ネットワークを利用し、アメリカとオーストラリアの協定大学の教員によるビデオ講義を活用した WebCT 上で授業を展開するオンライン教育科目である。教育交流部門の教員がそのうちの 1 科目（特別講義と集中講義合わせて 1 セットの講義）を担当し、「アメリカの文化と社会」と題し、アメリカ人講師のビデオ講義を基に、授業を行った。

VII. その他の主な活動

UMAP 活動への貢献：本学の教育交流部門は、学外での活動としてアジア太平洋諸国の政府並びに高等教育機関によって運営されている UMAP（アジア太平洋学生交流機構）の学生交流促進事業に積極的に参加してきた。21 年度は、UMAP 国際事務局並びに理事会が開

発した USCO (UMAP 学生交流オンラインシステム) プロジェクトのシステム開発のアドバイザーとしてひき続きタイの UMAP 国際事務局を支援し、オンラインシステムの立ち上げに協力した。また、本学も USCO システムを利用した UMAP 学生交流活動にも参加し、すでに何人かの学生を毎年受け入れている。

文部科学省の委託研究の報告書の出版等：2010 年 1 月から 3 月にかけて平成 21 年度文部科学省先導的の大学改革推進委託事業による「ACTS(ASEAN Credit Transfer System) と各国の単位互換に関する調査研究」の研究代表者を HUSA プログラム担当教員の 1 名が勤めたが、その最終的な日本語版の報告書を 8 月に印刷し全国の高等教育機関や専門家に送付した。また、12 月には英語版が完成し、本学の学術情報リポジトリに掲載した。

海外からの表敬訪問・海外及び国内の大学訪問及び会議への参加等

[2010 年]

- 4 月 * “The Importance of ‘Permeability’ with ECTS/ACTS/UCTS and Learning Outcomes for the Internationalization of Higher Education in Asia and the Pacific” ASEM (欧州アジア会議) セミナー“Credits and Learning Outcomes” ベルリン (堀田)
- 5 月 * 「ボローニャ・プロセスの浸透状況に関する国際比較」第 13 回日本高等教育学会、関西国際大学 (堀田)
- 6 月 * 「短期交換留学生インターンシップと大学の国際化」、第 46 回日本比較教育学会、神戸大学 (恒松)
* 「ASEAN+3 における ACTS (ASEAN Credit Transfer Scheme) を使ったアジア高等教育圏の発展の可能性」第 46 回日本比較教育学会大会、神戸大学 (堀田)
* “Development of UCTS and its implication; Permeable framework for the Harmonization of Higher Education in Asia and the Pacific”, The UCTS International Conference “New Dynamics of Student Mobility & UMAP Credit Transfer Scheme: Connecting the Asia-Pacific Higher Education” バンコク (堀田)
- 8 月 * “Influence of the Participation in the International Exchange Program in the University in Japan: Paradigm Shift in the Internationalization of a University”、第 69 回日本教育学会、広島大学 (恒松)
* “Introduction of UMAP, UCTS, & USCO: Development and Operation”

UMAP ワークショップ (フィリピン UMAP 国内委員会主催) マニラ (堀田)

- 9月 * Tübingen大学(ドイツ)より表敬訪問
- 10月 * 「広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)インターンシップ受講生のキャリア」第4回留学生教育学会・短期交換留学プログラム分科会、京都大学品川オフィス (恒松)
- * 「エラスムスにおける派遣事業の特徴と対日本人学生へのイメージ (ドイツからの事例報告)」第4回 留学生教育学会・短期交換留学プログラム分科会、京都大学品川オフィス (堀田)
- * UMAP国際理事会へ出席、ブルネイ (堀田)

[2011年]

- 1月 * Dr. Stephen Forrest (University of Massachusetts, Japanese Language & Literature)表敬訪問
- 2月 * “Ramification of the Bologna Process (BP)in European Higher Education Institutions: Issues and Future Challenges” アメリカ国際教育担当者協会 (AIEA) 2011年度大会、サンフランシスコ (堀田)
- 3月 * 「広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)インターンシップ企業体験者の講話とPBL協同学習」第5回留学生教育学会・短期交換留学プログラム分科会、名古屋大学東山キャンパス (恒松)

研究・その他の活動

1. 研究論文・著書

王 雪・浮田三郎 「日中の『酒』に関する諺に見る取り合わせ語句の対照比較考察」、『広島大学国際センター紀要』第1号, 2011年3月, pp.1-16

銭 清・浮田三郎 「日中の『商売』に関する諺に見る比喩表現」、『比較文化研究』(94), 日本比較文化学会, 2010年11月, pp.187-195

多和田眞一郎 『沖縄語音韻の歴史的研究』, 溪水社, 2010年6月

恒松直美 “Cooperation of University and Industries through the Internship for International Exchange Students of Hiroshima University” for Comparative Study on Student Exchange to Japan and non-English speaking EU countries (Representative: Yuriko Sato), 2011
http://www.ryu.titech.ac.jp/~yusato/route_file.html

恒松直美 “Women's Leadership and Power Relations in a Local Community in Japan”, Africa-Asia University Dialogue for Educational Development, Report of the International Experience Sharing Seminar (3), Teacher Professional Development In an Era of Global Change Fragility and Education, Center for the Study of International Cooperation in Education, Hiroshima University, CICE Series 4, 2011, pp.101-103

恒松直美 「広島大学短期交換留学生インターンシップと地域企業の国際貢献ー交換留学生インターン受け入れに関する地域企業の意識調査ー」『広島大学国際センター紀要』第1号, 2011年, pp.51-65

恒松直美 「広島大学短期交換留学プログラム留学生向けインターンシップにおける企業との連携」(第4章 企業との連携状況と課題)『日本とEU諸国における短期留学の特徴と高等教育の国際化に果たす役割の比較研究』[平成20-22年度 科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究代表者 佐藤由利子], 2011年, pp.15-17, 248-254

恒松直美 「短期交換留学生向けインターンシップ授業における企業体験者講話とPBL

(課題発見解決型学習)』『広島大学留学生教育』第15号, 2011年, pp.47-61

中川正弘 「Roland Barthes : Le Degré zéro de l'écriture -日本語翻訳とレクチャーの〈零度〉-」広島大学フランス文学研究第29号, 2010年, pp.19-39 (広島大学図書館リポジトリ登録版は20頁の補遺付)

中矢礼美 「広島大学留学生の状況と支援に関する研究 -心理相談支援および図書館による学業支援-」広島大学留学生センター『留学生教育』第14号, 2010年, pp.79-89

中矢礼美 「南太平洋における地域大学の特徴 -トランスナショナル高等教育の視点から-」, 杉本均 (研究代表)『トランスナショナル・エデュケーションに関する総合的国際研究』(基盤研究 (B) 20330172), 2011年3月, pp.174-190

中矢礼美 「インドネシアとトランスナショナル・エデュケーション」杉本均 (研究代表)『トランスナショナル・エデュケーションに関する総合的国際研究』(基盤研究 (B) 20330172), 2011年3月, pp.106-119

堀田泰司 「東アジア地域における質の保証のともなった学生交流の挑戦と課題」『広島大学国際センター紀要』第1号, 2011年, pp.67-78.

2. 学会発表

多和田眞一郎 「沖縄語の移り変わり-『すす (煤)』と『そへいし (添石)』とがともに『シーン』になるまで」, 日本総合学会, 2010年度秋季大会, 明治大学, 12月4日

恒松直美 「広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)インターンシップの新しい展開」, 留学生教育学会・短期留学特別プログラム分科会第3回会合, 大阪大学, 2010年3月30日

恒松直美 「短期交換留学生インターンシップと大学の国際化」, 日本比較教育学会 第46回大会, 神戸大学, 2010年6月27日

恒松直美 “Influence of the Participation in the International Exchange Program in the University in

Japan: Paradigm Shift in the Internationalization of a University”, 日本教育学会
第 69 回大会, 広島大学, 8 月 22 日

恒松直美 「広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)インターンシップ受講生のキャリア」,
留学生教育学会・短期留学特別プログラム分科会 第 4 回, 京都大学, 2010 年
10 月 29 日

恒松直美 「短期交換留学プログラム留学生向けインターンシップコースにおける企業体験者
の講話と PBL (課題発見解決型学習): 学生の自主的な学び」, 留学生教育学会・
短期留学特別プログラム分科会 第 5 回, 名古屋大学, 2011 年 3 月 4 日

中矢礼美 「インドネシアとトランスナショナル高等教育 (指定討論者)」課題研究Ⅱ トラン
スナショナル教育の可能性と課題 (日本比較教育学会 (神戸大学)), 2010 年 6 月

深見兼孝 「現代朝鮮語における『場所名詞』+lo について」, 西日本言語学会第 40 回講演・
研究発表会, 広島大学, 2010 年 9 月 25 日

深見兼孝 「時間関係を表す『~アトφ』について」, 韓国日本語学会第 22 回国際学術発表会, 韓
国外国語大学校, 2010 年 10 月 9 日

堀田泰司 「ボローニャ・プロセスの浸透状況に関する国際比較」第 13 回日本高等教育
学会, 関西国際大学, 2010 年 5 月 30 日

堀田泰司 「ASEAN+3 における ACTS (ASEAN Credit Transfer Scheme) 1 を使った
アジア高等教育圏の発展の可能性」日本比較教育学会第 46 回大会, 神戸大学,
2010 年 6 月 26 日

堀田泰司 (2010) 「エラスムスにおける派遣事業の特徴と対日本人学生のイメージ (ドイツ
からの事例報告)」第 4 回留学生教育学会・短期交換留学プログラム分科会,
京都大学品川オフィス, 2010 年, 10 月 29 日

堀田泰司 “Ramification of the Bologna Process (BP) in European Higher Education Institutions: Issues
and Future Challenges” at the Session “Ramifications of Bologna Process: Cases of Europe,
Asia and North America: Is Bologna Process for more competition or rather for
co-existence?” (セッション代表) in 2011 AIEA Conference, San Francisco, USA,
February 23, 2011

3. 学術研究補助金

- 恒松直美 研究代表者（平成 21-23 年度）科学研究費補助金, 基盤研究 (C) 「グローバル社会におけるパラダイム・シフト：日本の高等教育とキャリアにおける意識変容」
- 恒松直美 研究分担者（平成 20-22 年度）科学研究費補助金, 基盤研究 (C) 「日本と EU 諸国における短期留学の特徴と高等教育の国際化に果たす役割の比較研究（研究代表者：佐藤由利子）」
- 中矢礼美 研究代表者（平成 21 年度～23 年度）日本学術振興会科学研究費補助金, 若手研究 (B) 「平和構築コンピテンシーに関する国際比較研究」
- 中矢礼美 研究分担者（平成 20 年- 22 年度）科学研究費補助金, 基盤研究 (B) 「トランスナショナル・エデュケーションに関する総合的国際研究」（研究代表者：杉本均）」
- 堀田泰司 研究代表者（平成 21-23 年度）科学研究費補助金, 基盤研究(B) 「欧州高等教育改革が及ぼす欧州域内外の高等教育プログラムへの影響に関する研究」

4. その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

- 浮田三郎 財団法人石田教育振興財団評議員
- 恒松直美 広島大学高等教育開発センター学内併任研究員
- 中矢礼美 The ASIA-PACIFIC EDUCATION RESEARCHER(De La Salle University) 編集委員
- 中矢礼美 JICA 短期専門家として「復興期の地域に開かれた学校運営プロジェクト（インドネシア・マルク）」における学校開発計画に関する指導助言, 2010 年 8 月
- 中矢礼美 JICA 短期専門家として「復興期の地域に開かれた学校運営プロジェクト（インドネシア・マルク）」における学校開発計画に関する指導助言, 2010 年 12 月
- 中矢礼美 JICA 「復興期の地域に開かれた学校運営プロジェクト（インドネシア・マルク）」研修員受け入れカウンターパートとして講師およびコーディネーター, 2010 年 1 月
- 中矢礼美 JICA 短期専門家として「復興期の地域に開かれた学校運営プロジェクト（インドネシア・マルク）」における学校開発計画に関する指導助言, 2010 年 3 月
- 堀田泰司 UMAP 日本国内委員会専門委員

堀田泰司 UMAP 国際事務局技術アドバイザー

B. 学会活動

浮田三郎 日本ギリシア語ギリシア文学会会長
浮田三郎 言語文化教育学会理事
浮田三郎 西日本言語学会運営委員
多和田眞一郎 日本総合学術学会会長
多和田眞一郎 韓国学研究会会長
多和田眞一郎 韓国日本文化学会海外理事
多和田眞一郎 大韓日語日文学会海外理事
恒松直美 日本総合学術学会監事
中川正弘 日本フランス文学フランス語学会中国・四国支部機関誌編集委員
中川正弘 広島大学フランス文学研究会参与
中矢礼美 日本比較教育学会常任幹事
深見兼孝 西日本言語学会運営委員
深見兼孝 日本総合学術学会理事
深見兼孝 韓国学研究会理事

C. 講演・ワークショップ等

浮田三郎 公開講座「現代ギリシアのことばと文化（7）」，広島大学，2010年5月24日，5月31日，6月7日，6月14日，6月28日（計5回）

恒松直美 “Women's Leadership and Power Relations in a Local Community in Japan”, Africa-Asia University Dialogue for Educational Development : International Experience Sharing Seminar I on Gender and Equity – Fragility and Education, Special Speaker, Center for the Study of International Cooperation in Education, Hiroshima University, (Hiroshima International Center, January 13, 2011)

恒松直美 「広島大学の国際化と産学連携：短期交換留学生インターンシップ」東広島市商工会議所文化交流委員会講話，東広島市商工会議所，2011年5月12日

- 堀田泰司 “The Importance of ‘Permeability’ with ECTS/ACTS/UCTS and Learning Outcomes for the Internationalization of Higher Education in Asia and the Pacific」ASEM（欧州アジア会議）セミナー『Credits and Learning Outcomes " DAAD（ドイツ学術交流会）-ASEM 国際事務局主催，ベルリン（ドイツ），2010年4月15日
- 堀田泰司 “Development of UCTS and its implication; Permeable framework for the Harmonization of Higher Education in Asia and the Pacific", The UCTS International Conference “New Dynamics of Student Mobility & UMAP Credit Transfer Scheme: Connecting the Asia-Pacific Higher Education", UMAP 国際事務局、SEAMEO-RIHED 共催，バンコク（タイ），2010年6月28日
- 堀田泰司 “Introduction of UMAP, UCTS, & USCO: Development and Operation", UMAP フィリピンワークショップ, UMAP フィリピン国内委員会主催，マニラ（フィリピン），2010年8月25日